

日の勞働は、既に中世末葉にありて屢寛容せられ且つ施行せられたるが、宗教改革以來、殊に個々教會及び國家に於ては更に苛酷なる勞働制度の復興となれり。而して其後第十六世紀以來、個個工業、鑛山業、家内工業にありては、賃銀引下げ將た貧民階級に對する壓迫に伴ひ、既に勞働時間は甚しく延長せられたりしが、尙ほ大體に於ては勞働時間は慣習、教會及び行政法に依りて公正なる秩序を失はざりき。そのこれを失ひたるは勞働過程の斷絶を許さざる近世技術、大經營、職業自由、劇烈競争に依り舊制限の撤去せられたるに始まれり。實に第十九世紀の前半に於ては、日々の勞働時間は甚しく延長せられて、十二時間となり、十五時間となり、然り十七時間となり、而かもこれが強制を蒙りたるものは單に成人のみにあらずして兒童も亦免かれず。嘗て勞働時間の交代行はれたる場合には、幾分既にこの制は撤去せられたり。日曜日の勞働及び夜間の勞働は多くの工業部門に在りては一般のこととなれり。所謂季節工業 (Seasonal work) に於ては最も甚しく、日々の勞働時間は時々十六時間、然り二十時間に延長せり。企業家の無制限なる營利衝動と勞働者の賤民的危急とはかくの如き

不祥状態を現出せしむるの條件たり。近視眼的取引經營はかくの如くして費用を變せずして生産結果を増大し得べしと信ぜり。マンチエスター派の英國國民經濟學者「セニオル」は暗語を掲げて曰、製造業者の利潤は最後の數時間に於て獲得せらるべしと。而して勞働者階級の家族生活に對し、その身心上の力に對する憂慮すべき結果に想到するとなし。資本利用時間を延長すれば過勞勞働者は愈以てその負擔を加へ、十時間、十二時間以上も従業せる勞働者、然り従業時間の長さ夜間勞働者は勞働給付に於て益劣悪なること——これマンチエスター派の看却せる所若しくは看却せんと欲する所なり。

これが結果は畢竟反動を惹き起さずんば止まざりき。進歩せる勞働者、人道主義、衛生的及び社會的諸科學は過長勞働時間を攻撃せり。英蘭の鐵道企業家は勞働時間が過勞働低賃銀の國土に於て最も長く、有效なる周約的勞働の發達せる國土にありて最も短かきことを證明し、眼識ある製造業者は個々に勞働時間を短縮せんとするの計畫をなし、而して賃銀に對する支出同一にして勞働給付は同一額同等質なり若しくは更に優良なることを發見せり。立法上にも、徐

徐ながら、或る工業部門に於ける兒童及び未成年者の勞働時間を制限せんとし、千八百四十七年以來英蘭に於ては一切の婦人勞働時間を短縮せり。勞働者の組織將た二三國土に於ては法律も亦、これと等しく成年男子の勞働時間(一日)を十時間、十時間、九時間に制限せんとを要求したり。困難なる勞働に對しては九時間制は既に履行はれたるが、一般には九時間制若しくは八時間制は勞働者の將來理想と認めらるゝのみ。たゞ争點はこの制限勞働日が果して法律に依て強制せらるべきかに繋れり。夜間勞働及び日曜日勞働も亦多年の争議を経て最近二十年以來、獨逸に於ては千八百九十一年に制限せられたり。これと等しく日曜日に於ける販賣店開戸の時間、日々夕刻の閉鎖時間も亦制限せられ、旅館、娯樂場を夕刻若しくは夜間一定時間に警察の力を以て閉鎖せしむることも亦或る意味に於て勞働時間短縮に屬せり。これ等運動の個々現象をこゝに詳述すると能はず。而して凡そ立法上の變動に先ちて起り、其後障害せられ利己主義的利害の反動としてこれに次で現はれたる争議にも亦こゝに立ち入ること能はず。千八百九十六年乃至千九百年の間、獨逸に於て、麵粉製造業の職人及び徒弟の

勞働日を十二時間、十一時間及び十時間に短縮せんとする計畫實行の困難なりしは、凡そ政治的黨派心よりこの問題に關係せる人々にとりて殆ど一つの凌辱なりき。工業上の勞働時間短縮、日曜日休息の復興、適當なる夜間勞働の制限は、到る處に漸次に社會的大進歩、健康、文明及び生計等の向上手段として有效なる事蹟を證明せり。實にこの結果は幾分神經及び筋肉の活動を一層緊張せしむべしと雖も、尙ほこの周約的活動も八時間乃至十時間の勞働なれば以て堪へ得べし。而して優者及び能者を健全に淘汰し得べきなり。

而して吾人は一般に次の如く言ふことを得べし。曰、社會組織益復雜となり、同一人にしてその時間を配分して、或は勞働及び取引に、或は家族及び休養に、或は教育及び一般的關係の爲めに献ぐべきの必要にして益緊切となれば、愈以て一般的社會的に二六時中を安排秩序し、能くこれ等の諸目的に順應せしめざる可らざるなりと。

(三)自然物貨銀及び貨幣貨銀、貨物支拂。貨銀支拂の最古方法は一般に、住居、食物及び衣服の給與にして、或は家族員及び奴隸の如くこれを直接に受くるあ

り、或は隷屬民の如く間接に小舎及び耕地に依り家畜及び機具の貸付に依りてこれを受けたるあり。貨幣賃銀は屢人格的自由の發達と聯關し、而かも未だ一般的に自然物賃銀を驅逐せる場合なく、若しくは忽ちこれを驅逐せる場合に在りてもたゞ主として貨幣賃銀制の行はれたるに過ぎず。差當り食物及び居住が賃銀の主要部分を占めたるは、嘗に婢僕、徒弟、職人の大部分並に一切の船員のみにあらず。農業労働者の過半に對しても亦、貨幣經濟の最も發展せる國土即ち英蘭及び北米合衆國の如きにありて尙ほ、自然物賃銀制は主として若しくは幾分延て現今時代に及びたり。獨逸にありて貨幣賃銀制は南西部には田舎に於ても第十八世紀及び第十九世紀の間に普及するに至りしが。北部及び東部にては最近十年に及ぶまで自然物賃銀制を主とし。而かも屢これが形式は、労働者をして自己の小農經營に當らしめ、牛、豚、山羊、家禽を飼養せしめ、而して雇傭主に對するその關係とこれが全生計及び經濟慣習に及ぼす結果とは優良にして頗る觀るに足れり。

ニーデルザクセンの雇人(Henerling)は農民及び土地所有者より、借地形式にて、

住居、厩舎、一五乃至二ヘクタールの耕地、牧草地及び牧場、並に必要なる車輛を借り受け、而してこれに對し百日間乃至二百日間の労働を提供せり。このHenerlingはその他の點に於ては不羈獨立而かも屢抗爭的に、その主人と同列の組合員たり、殆んど常にこれと好關係を維持し、屢又貯蓄あり。副業的に雇傭労働に當れり。殆んどその生活資料を購入するの必要なく、家族と共に困乏に陥るとなし、家族は幾分副業的に家内工業に従事せり。Henerlingは恐らく最も幸福なる獨逸労働者の體型なり。貨幣支拂の方法をとれども、その雇傭主に對する關係は、労働契約と借地とを結合することに依り、貨幣賃銀を計算するに借地を以てすることに依り、且つ農民經濟とHenerlingの經濟とが健全に相互協合關係をなせることに依りて向上せられたり。彼等と雇傭主との間に利害の衝突なく、彼等の家族は、よし年々契約を豫告改訂することを得れども、數代依然として同一地域に土着したり。

北東獨逸のインスマン(即ちインステン—小舎居住の労働者—既に説明せり)の地位はこれに類似すれども全然同一にはあらず。その地主より受くる所の賃銀

は凡そ三分の二は自然物にして三分の一は貨幣なり、而して又地主の有に係かる小舎、打禾割前(その打禾せる一二乃至三〇プロツェント、年額二〇乃至七〇ツェント)ナル、就中二五ツェントは其の家族の爲めに使用し餘分はこれを販賣せり、尙ほこの外にも屢穀物耕地、馬鈴薯耕地及び牧場地を得たり。これには土地等級に従て廣狹一定せず。從來インスマンは概して牛、豚、山羊、家禽、鷄を地主より得てこれを飼養し、犢、卵、羽毛を販賣せり。これに對し夫婦及び奴僕は僅少貨幣賃銀にて地主直領を耕作せざる可らず。從來はインスマンもその主人と等しく販賣上の利益を有せり。概してこれが營養も良好なりしが、痴鈍にして屢地主に隷屬し、Henningの如くに獨立不羈ならず。その自足經濟は以てHenningの場合の如く彼等をして經濟上及び道德上に向上せしむべき基礎たること能はざりき。蓋しインスマンはHenningの如く多數ならず、又しかく封鎖的ならず獨立せざりしを以てなり。

これ等の労働者と別にゲルトネル(Gehrtner)及びデプタンテン(Dephtanten)と稱せらるるものあり、シレジエン及び其他にありては既に業にインステンに代はり、

貨幣賃銀、時間賃銀、請取賃銀を支拂はれたるが、尙ほこの外に或る確定せる賃銀外自然物給與(Depntal)、住居、馬鈴薯、牛乳等の一定少額を地主より給せられ、而して最早自足農業經濟を營まず。

主要なる自然物給與たるこの始めの二類即ち賃銀外給與及び住居は今や將に解體せんとし、インステンは屢家畜を引き上げられ、從てその家計及び生活の最も重要な手段を失へり。打禾機械の使用せらるゝに伴て打禾割前も亦屢廢せらたり。雇傭主も労働者も共に貨幣賃銀を利とし、労働者はこれに依て不羈自由の境に進まんことを欲し、雇傭主は土地、家畜、牧草地を更に自由に處理せんと欲す。關係なき遍歴労働者は雇傭主の最も便利とし且つ利益とする所なり。凡そ自然物給與は或る親密なる家長制的關係、相互的直接關係及び契約を前提となす。利己主義的營利衝動が優勢となり、技術及び經營の新形式、最も周約的なる經濟の行はるゝに及んでは、一般に貨幣賃銀と短期契約とを利とせずんばならず。自然物給與の舊形式は少なくとも一ヶ年契約を前提となせり。然れども將來に於ても自然物給與の或る形式は依然として存續すべし。これ

田舎に於て賣買機會の稀少なる僻遠地方に於ては、雇傭主及び労働者何れより觀るも、正當に單簡に時間を節約し而して自然的なるの利あり。その秩序宜しきを失はずその實行誤らずんば、これ雇傭主と労働者との間に喜ぶべき關係を效す所以なり。歐羅巴に於ける田舎労働者の大部分よりこれを觀るに、自然物賃銀組織の撤廢はその生計及び營養の顯著なる惡變を意義し。麵麩、肉、牛乳、乾酪及び卵を食としたる田舎労働者は馬鈴薯を常食とする賤民と化し、嘗て雇傭主と利害を一にしたる労働者は變じて雇傭主に抗爭し屢これに向て怨恨を懷ける利害衝突の一階級となれり。自然物給與と聯關せる自足經濟を解體するは、これやがて健全なる家族的慣習、家族の團欒、勤勉及び技術上の知識を破滅し、併せて嘗て労働者家族の營みたる紡績及び織布のことも撤せられその労働者の家政に及ぼす影響もとより善ならず。要之舊時代の慣習と特色とは皆失はれて、貨幣經濟に適應する新慣習は未だ容易に發達を期す可らず。「トインビー」は「エリサベス朝の法律が各労働者家族に四エーカーの土地を給與すべしと要求したるあるを説き、この状態が千七百六十六年乃至千八百四十四年の間に圍地制と共

に始めて消滅したることを述べ。而してこれに附言して曰、若し労働者毎戸に○五乃至二エーカーの土地が占有せられ若しくは給與せらるれば、英蘭の全社會發展は恐らく現時の面目を革め即ち換言すれば頓に改善せらるべしと。  
「トインビー」の言や敢て不當なりとせず。然れどもその如何にして都市労働者及び工業労働者をして此の如き農業自足經濟を經營せしめ若くは創始せしむべきかは問題なり。不祥状態の依て生ずる緣由は、貨幣賃銀が漸次に益々自然物賃銀の制を驅逐することに在らずして、労働者が貨幣經濟、正當なる支出配分、豫備貯蓄をなすべき能力の未だ發達せざるに先ちて、貨幣賃銀制の施行せらるること多きに存せり。一般貧民行政に於て、貧民の智能幼稚なるに應じ益々自然物救助の方法をとり貨幣救助の手段に訴へざるが如き、これ自然物救助は濫用せらるゝこと少なく、惡用せらるゝこと罕なるが故に。而して獨り道德上に高尚なる發展をなせる貧民に對しては寧ろ貨幣救助を可とし、加之これに依てその經濟運營の促進せらるべきが如き、この關係は貨幣賃銀及び自然物賃銀にも亦移して以て得失を判ずるを得べし。貨幣賃銀は殊に工業及び都市に於て必ら

ず主として行はれざる可らず。されども貨幣貨銀制の良果は、勞働者が既に貯蓄心を養成し、賣買のことを知悉し、消費組合關係を發達せる場合に限り。而してこれが爲めには或は數代の經驗を要したるあり。この中間期に於て勞働者は極めて沈淪し、最も困乏生活を経過せり。近世に及びて高尚なる勞働者體型の發達するに及び、始めて能く貨幣貨銀制を利用するに堪へ、又これを正當に活用し得るに至れり。此の如き近世勞働者に對しては貨幣貨銀は幾分強制せらるべき必要あり、自然物給與の良家長制的舊形式頽廢してこれが惡變を觀るに至りたる場合、高利主義的計畫より勞働者に對し豫告せられたる貨幣貨銀を給せずして貨物を給し、この支給せられたる貨物は勞働者自ら使用すること能はず、且つ粗惡にして高價なるにも拘らず貨銀として受取らざるを得ざるが如き場合—此の如き場合に於て殊に然りとす。

自然物及び商品を以てせんとする此の種の支拂濫用は、既に中世末葉に、鑛山業に於て個々工業に於て、次では家内工業に於て現はれ、而して始めて第十九世紀の間製造業及び工場經營の地方に於て方にその極端に達せり。個々手工

にしてその商品を販賣すること能はざるものは、既に千四百年乃至千六百年の間、職人に對し貨幣を以て支拂はずしてあらゆる商品を以てせんとし、屢その生産に係かる商品を以て貨幣に代へんと企てたり。手工組合法はこれを禁止したり。鑛山業に於て、勞働者が屢その食料品及び爾他必需品を購入すると困難なる場合に、職工長及び工夫監督は販賣店、旅館、酒店を設立し、勞働者は若し好遇せられんと欲せば、強制的にこゝにて高價なる物を購買せざる可らざりき。鑛山業に關する規定は第十六世紀以降この種の計畫を嚴重に取締れり。第十六世紀以來盛運を致せる家内工業にありては、前貸人(商人)は織布工、鍛冶匠、木工に對して先づ原料品然り屢又機具及び補助資料をも高價に押賣りし、而して後にこれ等手工の生産品を購ひ入るゝ際は必らず代償としてこれをしてあらゆる商品を自家商店より高價に求めしめ、かくして手工を隷屬的信用關係に陥れんとしたり。家内工業上の規定はかくの如き不祥狀態をも亦排除せんと力めたり。然りどもこの規定は千七百五十年乃至千八百五十年の間に漸次に頽れ、職業の自由は宣布せられて到る處に商品支拂(貨幣支拂に代ふるに)も罪に問はる

ることなきに至りて、この濫用は鑛山業、家内工業、建築業、大工業に更に新たに起り來り、以て千八百年より最近時代に於けるこれが禁止令の發布せらるるまで止まざりき。然り而して今日商品支拂(Truck, Trucksystem)即ち現金支拂に代ふるに商品食料等を以て賃銀を支拂ひ、而してこの商品等の價格は雇傭主の隨意に決定する所たり、譯者云)及びこれに類似せる實行法(前貸信用、原料及び補助資料、機具の高價供給)を禁止せんとする場合にも、概して一舉にしてこれを變化すること能はず、漸進の功に俟たざる可らざるなり。

英蘭に於ける Trucksystem の禁止は抑千八百三十一年に起り、現には千八百八十七年及び千八百九十六年の法律に依て補充せられたり。プロイセンに於ける千八百四十九年の禁止は未だ十分にその効果を奏せず、千八百六十九年の獨逸の禁止も亦然り。千八百七十八年及び千八百九十一年の詳細なる法律を俟て始めて比較的憂慮すべき濫用状態は排除せられたり。禁止法實行の困難とする所は、實に雇傭主(一切の雇傭主たると單に工業上の雇傭主たるとに別なく)に對して貨幣に代ふる商品を以てして賃銀を支拂ひ、労働者に商品を信用貸すること

を禁じながら、一方には實際上の理由より労働者の爲めに住居、燃料、土地利用、制規の食物、藥劑及び其他醫術上の救助、加之機具及び原料をも相當の相場にて供給することを雇傭主に對して許容せざる可らざるの點に在り、禁止すべきと許容すべきとの限界線は法文に依て完全にこれを規定すること困難なり、これを實際に施行する上には屢、更に困難ならんばあらず。然れどもトールックジステームを以て労働者の利益を壟斷せんとする極惡濫用に至りては、今日既に英蘭に於て又獨逸にありて廢除せられたるを觀る。

賃銀を旅館及び酒店にて支拂ふことを禁止するも亦同様の目的に出づ。労働者に對しては直に賃銀を酒に代ふるを禁ずべく、雇傭主に對しては巧みに代理人をして酒店を經營せしめこれをして労働者を誘惑し不正支出をなさしむるが如き奸策を不可能ならしめざる可らざるなり。

**二百〇八**

賃銀率以外労働契約の個々重要規定、貨幣賃銀の計算法、(ホ)請取賃銀及び時間賃銀。曩時人間の勞力が分化に乏しく、苟くも使用せられたる労働者は家族經濟及び小經營に於て交あらゆる活動に當らざる可らざりしや、一

切の賃銀を時間に準じて計算支拂すること愈以て自然なりしが如し。既に労働分化及び職業分化の發達せる限り、労働者の階級に應じて時間給に差等あり、以てその活動の意義と技術的發達の程度とに順應せり。此の時間賃銀には過去及び現在を通じて年給、月給、週給、日給若しくは時間給の別あり。社會的分化の進歩に伴ひ、賃銀率を異にする労働者階級はそれぞれの職業及び經營に於て増加し、而して各階級内にありて個々労働者は給付に多少の區別あり労働の難易に幾分の不同あるにも拘らず、何れも同一率の賃銀を給せられたり、古今を通じて然り。されば労働者は賃銀制上には何等特に努力を效すべき利害關係を有せず。その果して平均的(それぞれ階級に)特質を備ふるか、將た家長制的關係に存したる忠實の動機、こゝに涵養せらるる義務感情の動機を有するか否かを問題とし、これを標準としてそれぞれ階級の賃銀を支給せらるるのみ。

今日尙ほ時間制賃銀は、比較的高尙にして殊に一般に強烈なる義務意識の發達せる公私職員の活動に存するのみならず、狹義の労働者階級にも亦普及せり。時間賃銀は古來の習慣にして、舊式の吞氣なる労働者はこの制に慣れ寧ろこれ

を以て利となす。この方法は實施に最も容易にして、この計算は争義と疑惑とを招くこと至て稀なり。今日この時間賃銀は工業に於けるよりも寧ろ農業に多く行はれ、歐羅巴の東部にありてはその南部に於けるよりも廣く普及せり。古來の習慣を墨守せる労働者が労働給付を標準とする賃銀支拂制を採らば果して一層努力するに至るべきかは一般に疑はれ。有爲なる工業労働者と雖も、ツクジステームの濫用と弊害とを知悉せるが故に、尙ほ屢時間制を利となせり。吾人はこれに就て後段に論及する所あるべし。

給付、出來高を標準とする賃銀支拂、請取賃銀若しくは出來高賃銀は、労働者が雇傭主の家族員にあらずして既に手工親方たり家内労働者たりし場合に發達せり。この制にては一定の個別労働に對して支拂はれ、十個及び百個の仕事(個別)を供給し、それに準じて十倍及び百倍の賃銀を支給す。鑛山業に於けるが如く、労働者を統制すること能はざる場合、組合として一定量の鑛物を採掘する場合に於ては、賃銀支拂は鑛物、石炭の採掘量に依り。其他家内にて紡績せしめ織布せしめざるを得ざる場合にも亦紡績糸及び織布の長短に従て賃銀を支



給す。要之技術が計算せられ計量せらるゝ等質の労働を供給する場合に於ては、この給付制を採り、而してこの賃銀制の結果は直に必然的に、労働者をして労働に對し強く利害を感ぜしめ、勤勉及び給付能力も亦これと相俟て増進を來せり。現今の大體上の計算に依れば、人種、工業、技術の進歩状態如何に準じ、労働者の給付能力は出來高賃銀制と共に二〇乃至一〇〇プロセントの増加を來せりと稱せらる。

出來高賃銀制は嘗ては主として家内工業及鑛山労働に屬したるのみなりしが、第十九世紀の間に始めて大工業にも愈適用せらるゝに至れり。英蘭に於てその輸出品の十分の九は現にこの賃銀制に依れるものと主張せらる。其他の工業國も亦殊に最近四五十年來英蘭の先例に倣てこの制をとれり。鐵道布設と共に請取賃銀制は到る處に普及し、農業然り殊に周約的農業にも亦應用せられ、採集農業、草刈、收穫、堀割工事はその地積に從て賃銀を支給するの制をとれり、然れども例へば獨逸の東部に於けるが如き、日給(時間給)制は尙ほ久しく撤去せられざりき。今日と雖も東部獨逸に於て將た又幾多の工業に於て、既に企業家

は苟くも出來高制を施行せんとし、自家竝に労働者にとりて出來高制の效果多大なることを稱すれども、労働者は則ちこれに頑強に抵抗するの實例あり。出來高制労働は労働者をしてなるべく短時間に多くの出來高を完成せしめんとし、労働者の利己主義的營利衝動を喚發せしめ、その筋肉と神經とを擧げて興奮せしむれども。これが惡半面も亦これあり、迅速を主とするが故に労働給付の品質を劣等ならしめ、これが爲めに多くの精巧なる労働にありては實行すること能はず、若しくは労働品質を損ぜざらしめんが爲めに嚴重なる統制を要せり。出來高制は殊に従業の初期及び定期に従業せざる者にありては過分の惡結果を齎らすことなしとせず、請取仕事は殺人仕事なりとは労働者の常套語なり。この難を救はんと欲せば、必らずや労働時間を相應に短縮し、機械の急劇運轉をして労働者の力を過重に緊張せしむることなく、概して請取賃銀率及び労働者待遇を正當に規定せざる可らず。さて出來高制を實施し而してこれを遂行せんは實際上に大困難あり。種々の技術的個別労働を辨別し、それぞれの労働を評定し、その個々労働に同一賃銀率を適用せざる可らず。既に單純なる製

靴工場、若しくは裁縫工場と雖も數十の賃銀率表を備へ、大工場に至りては屢數百人數千人の労働者に對する賃銀率表を備ふべく、而して其個々相互の關係は正當を失す可らず。この間に處して能く正鵠を誤らざるは、技術及び全労働に對する精密なる知識と長期の經驗とを俟ち漸次にして始めて期するを得べし。雇傭主が尙ほ單獨にてこの賃銀率を確定する場合は、差當り労働者が日給に比しやゝ多額の賃銀を收め得んことを力むれども、この累進賃銀額が増加するや屢その率を引下ぐることなきにあらず、これ抑労働者をして寒心すべき苦境に陥れずんばあらざるなり。出來高制を正當に遂行するの困難は、則ち高級労働にして尙ほこの支拂制に對し原理上に引き續き若しくは一時的に反抗せる主要原因の存する所なり。これに加ふるに、大方職業部門にこの出來高制が實施せらるゝの形式は差當り個人的請取仕事にあらずして群的請取仕事なり、而してこの群の頭のみ悉く利益を收め、これと共に労働する多數労働者は、頭の薄情にして恣まゝにその權力を行使するに從て、愈以て賃銀に於ても待遇に於ても悲惨なる境遇に陥らざればならず。尙ほ吾人は後段これに論及すべし。則ち然

りと雖も出來高賃銀制の本質はこの種の濫用ありと雖も毫も不關焉。或は尙ほ出來高賃銀制を難じて言ふものあり、曰、出來高賃銀制は労働時間を延長し、労働を一層危険ならしめ、失職現象はこれが爲めに増し、未熟なる労働者は労働機会を奪はれ、労働者の賃銀に甚しき差別を生ぜしむ、寔に出來高賃銀制は資本主義的生産の特殊形式なりと。然れども「マルクス」と雖も、出來高賃銀制が個人性、自由感情、獨立心、自制の道德を労働者に發展せしむることを承認せり。

高級労働者の、正當に處理せられたる出來高賃銀制に對する抗争は、最近二十五年以來著しく下火となれり。「ウツラプ」夫妻の證明する所に依れば、英蘭に於て大職工組合に屬せる約百萬人の労働者の中、五十七萬三千人は出來高賃銀制、十四萬人は混合制、二十九萬人は時間制に依れり、英蘭労働者はこれ等の賃銀制そのものゝ間に敢て優劣を立てず、苟くも技術、慣習、經營制度に準じて容易に多額の累進的賃銀を供し、即ち從て規定準率以下に賃銀を引き下げらるゝことなき確實なる保證を與ふる場合、賃銀及び労働條件に關し雇傭主及び労働

者の共同協定を容易ならしめ、而して其間に絶對的に隨意的要素を容さざる場合には、その何れの制たるを問はず同意を表すとす。尤も英蘭に於ける機械労働者の場合の如き、機械はそれぞれ多少相異せるが故に、寧ろ時間制を以て可とす。かゝる場合に出來高制はやくもすれば職工長若しくは企業家の隨意的爲めに犠牲に供せらるゝの危険あり。有名なる社會共和黨と雖も近時は出來高賃銀制を可とし、而して之に對する抗争は撤廢したり。獨逸に於て出來高賃銀制を不可となすの論は、實際の理由を根據とせずして、主として獨斷主義的寫象に依りて醸成せられたるものなり。獨逸に於ても亦多くの工業上に法定契約の成立するに比例し、該契約は請取賃率を基礎とするにあらずんば不可能なりき。現に社會共和黨主義の労働者と雖も、何等か法定契約の伴はざる時間賃銀制を維持し若しくは復興せんとするに對して、法定契約そのものゝ極めて有用なること、然り遙かに優れることを看取せり。幾分時間給と出來高制との差異は、今日に至りては既に甚しからず。例へば左官に時間給賃銀を支拂ひながら、一方にその時間内に一定數の石を築壁すべきことを要求し、若しその數に達せ

ずんばそれに應じて減給するが如き場合に於て然り。

「シモス」曰、出來高賃銀制を一般に撤廢せんとするは猶ほ一切の機械労働を排除せんとするが如しと、これ寔とに然り。「ウエリスホッフ」は、公平なる獨逸労働者が主として能力智慧及び技巧に秀でたる者の高賃銀を支給せらるゝことを妥當と感ずることを主張せり。出來高賃銀制は常に或る缺點あり、例へば多くの労働者にありてこの制は三十五歳以後に收入を減少せしむるが如きこれなり。然れどもこれが主要價値を述べれば、幾分教育に依り幾分淘汰に依りて根本的に活潑敏捷なる新労働者體型を生ぜしめ、その濫用が不健全なる過勞と賃銀壓迫とに至らしむること一再にして足らずと雖も、尙ほ大體に於て賃銀と生計水準とを昂進せしめずんばあらざるなり。

將來に於て高尚なる労働者體型の確立せる曉には、吾人はこの出來高賃銀制の最早必要ならざることを恐らく期待し得べし。例へば既に今日に在りても極めて高級の労働者に關しては無用の長物となるが如し。かくの如くして現に請取労働のその如き場合には、恐らく幾分再び確定賃銀及び確實俸給の制をと

るに至るべし。労働者監督、職工長、狹義の官吏階級は今日にして既に概して出来高賃銀の支拂を受けず。時間制賃銀と出来高賃銀との混合組織は今日既に廣く普及し、而して一面には全く確實なる収入を得せしめ、他面には勤勉と出精とに應じて増額即ち定額外収入を提供するの特色あり、定額外の収入は何人も希望する所たり。農業労働者の多くは收穫に對しては打禾割前を、採集労働に對しては貨幣請取賃銀を、爾他の労働に對しては確定日給を供せらる。同一の労働に對しても、機關士は月給及び哩給金を、教授は俸給及び講義料を收得す。伊太利の機械工場にありては多く次の如く時間給と出来高制とを混合せり。即ち労働者は廻期的に交互に時間給と出来高賃銀とを受くれども、苟くも兩制を考量し、若し労働者が出来高賃銀制に於て労働してその得る時間給に及ばざれば、この場合には労働者は少なくとも規定の月給を收得するなり。

(ハ) 格外給及び賞與、利潤參加。今し論述せる制は更に賞與及び格外給の制を發達し、主として確定時間賃銀而して又幾分請取賃銀は補充せられたり。クリスマス若しくは年頭の自由贈與としての賞與は、商事取引に於て極めて夙に發

達したり。その額は屢古來の慣例に依れども、取引好況年度には増加せらる。而して漸く以て契約的に確定せられんとする状態に在り。格外給は個々労働給に對する附加賃銀として契約せられ、而して殊に請取賃銀が不可能にして而かも特殊の出精を希望する場合にこの制あり。粘土窯製造所の竈掛はその竈火の好燃焼に對して一々格外給を與へられ、蒸氣機械の火夫は節約石炭のツェントネル毎に格外給を受く。然れどもこの外に格外給は極めて種々の方法にて支拂はれ。即ち若干年間一取引に労働せるものゝ場合は、遅刻なき者に對してこれを給し。貯蓄銀行に預入をなすものゝ場合は、労働者の最も勤勉なる子供に對してこれを與ふるが如し。特に亞米利加に屢行はるゝ形式は、先づ技術的労働過程を嚴密に吟味して一働勞給付の完成せらるべき平均時間を確定し、即ち例へば五時間と確定し、而して労働者がこれを四時間にて仕上ぐればそれに相當する格外給を支拂はるゝものなり。若しくは豫じめ蓋算的時間賃銀を計算し、而して後節約を生じたる場合に、労働者は該節約の半額或はその全額を收得するものなり(利潤配分と反對に所得配分を受く)。利潤參加は取引の純収益に準じて

格外賃銀を與へ、格外給は則ち勞働過剩給付に準ず。賞與及び格外給は、その有效なる結果を生ぜんが爲めには、少なくとも常に本賃銀に對して五乃至二〇プロセントの割合に該當せざる可らず。

四二二

配當若しくは取引利潤割前は古來商事取引の高級補助員に一般に行はれたるものにして、其性質は格外給に近似せり。近時に至りてはこの利潤參加の組織を勞働者全體若しくは少なくとも優良老人の勞働者に對して施行せんとするの計畫あり。これには幾分全取引の利潤を幾分は特殊取引部門の利潤を基礎とし、さて年度末に參加者に向て利潤剰餘の一定割前を支給し、從て不況年度には支給せられず、好況年度に於けるものは賃銀の五乃至三〇プロセントをなせり。現にこの種の經營は諸國主として佛蘭西、英蘭及び北米合衆國に在りて、その數は幾百、而して概ね大規模なりとす。この制度が最も良果を擧げ得るは、企業家と勞働者とが相親和せる場合に在り。この制度は勞働者を教育して勤勉に、材料使用上に節約に、機械取扱上に丁寧な、取引そのものに對して強く自己の利害を感ぜしめ、而して妄りにその地位を變換することなからしむ。多くの經

營に就てこれを觀るに、勞働者の勞働給付増進に伴ひ、總利潤は勞働者に與へらるゝ割前に比し遙かに巨額に上れり。然れどもかくの如き結果は、自然勞働者が利潤參加に依て根本的に其能力を發展し、取引成績が主として勞働者の特質如何を條件とすることに俟てり。この故に美術品、特殊製品、精巧機械及びこれに類するものを生産する工業にありては、特にこの組織に依るを適當とす。勞働者殊にその急進主義的なるもの、社會主義的なるもの、團體組織をなせるものは、この制度が利害衝突を排除し若くは緩和し、而して彼等は差當りこの利害衝突を劇烈ならしめんと欲するの理由に依り、これに反對したること少なからず。或は主張して、この制度は利潤參加者をして自ら過勞せしめ、而して勞働需要を減少せしむべしと言へるものあり。この制度の最も惡果を齎らすは、個々企業家がこれを愚用し、その勞働者をして強いて職工組合に屬せざらしめんとし、若くは一般的賃銀騰貴を禁止せんとする場合に在り。多くの學者はこれを難じて曰、賃銀好況の際に勞働者の収入を、管理者がその職務を有効に果たせるか否かに準じて増減せんとするは、意義なきことなり。かくの

四一三

如くなれば管理者にして無能なれば勞働者はその出精努力せるにも拘らず収入を増加すること能はざるなりと。この種の非難は殊に大量商品を製造する工業にして、これが利潤結果は勞働者の如何に俟たんよりは絶對的に管理者の能力次第に準ずるが如き場合にありて正當なるが如し。この故に積置品工業、大量商品の製造、將た又主としてその利潤が管理者の相場打算に依て支配せらるゝが如き工業に對しては、この組織は採る可らず、應用せらるべき範圍廣からざるべし。これと反對に現今の社會競争が再び平和状態に變じ、企業家と勞働者とが再び互に組織的關係を結ぶに至る限り、恐らく一般に將來に於て採用せらるべし。

若しそれ勞働者も亦自己の資本を投じ依て損害の危険に任ずる場合に限りては、利潤參加は賃銀關係撤廢の一手段たり。果して然らば、利潤參加の制は支配人を備ふる一種の組合契約若くは生産組合と多く異なる所なし。かくの如く勞働者の資本を加ふる取引業は、民制的生産組合に比し、これを管理すること容易なれども(本譯補の第四冊 **百四十五** 参照)、賃銀契約上に利潤參加制を施

ける所の支配的企業と比すれば更に管理を困難となす。既に勞働者が資本を投ぜること少額ならざれば、管理上にも亦これに相當する容喙權を認めざる可らず。而して既に今日果して能くこれを實行し得べきかは疑問の存する所たり。(ト)年限別賃銀。「ダビッドシユロス」は格外給組織を累進賃銀と稱したるか、余は寧ろ勞働者の經歷履歴を立脚點として賃銀を秩序せんと欲する賃銀法にこの名稱を適用せんとす。この累進賃銀法の適用は、多年若しくは一生涯同一の大經營に従業せる勞働者の場合に限らざる可らず。此種の勞働者は國家及び自治體に屬する大經營に於ても、トラスト及び株式會社に於ても漸く増加せんとするの傾向あり。凡そ此等の勞働者に對しては、官吏の勤勉に於けると等しく、十八歳乃至二十歳のものも四十歳代のものと同賃銀に差等なく、二十五歳より五十五歳に至るまで何等収入の増加なきが如きは蓋しその當を得たるものにあらず。この種の勞働者に對しては、宜しく十歳乃至四十歳の間、に收得し得べき總賃銀をして年限と地位の昇進とに準じて段階あらしめざる可らざるなり。例へば「イセン」の陶器工場に於けるが如き、標準請取賃銀の制あり、二十七歳以下の

働者はこれよりも差引かれ、而して三十三歳以上の労働者は漸次にこれよりも累進増加せられて四一プロセントの増給を得ることを確定せり。普通労働者に對しても地位の累進に賃銀の累加を併せ行ふこと、技術及び經營關係に依て恐らく有效なるべく且つ之を實施すること不可能にあらず。この組織は、最低地位に採用するものは青年労働者に限り、而して凡そ高級の地位に補任するには年限と能力とに準ずるに至りて、一層較著に且つ官吏の進級制と相等しきを得べし。この組織は獨逸の鑛山業には古來の習慣たり。近時に至りて再び次の如く確定せられたり。見習坑夫、擔夫の三階級、準坑夫及び坑夫即ちこれにして、その賃銀割合は七、八、九、一〇、一一及び一二に相當せり。若し廣く普通労働者階級より職工長となり、工場管理者となり技師となることを得る場合には、依て以て優秀労働者に對し地位並に賃銀の進路開かる。この組織は、ブライヌ及びウツプ夫妻の報告する所に依れば、英蘭に於て大工業全般に極めて普及したるが如し。ウツプ夫妻はこれを以て現に多くの工業に存在せる徒弟強制に優れりとし、而してその同時に労働者に對し久しきに亘りて從業

持續を保證するの效ありと言へり。取引停滯に際しては、概して青年労働者の新雇備斷絶するに止まり、若しくは新雇備の若干労働者が解雇せらるゝに過ぎず。既に久しく從業せるものは高々一時一段階だけ引き下げらるゝのみなり。この組織の完全に發達せるものは、例へばギーゼに於ける「ゴードン」の工場、巴里に於ける大書工場「レクレール」、イェーナに於ける「ツァイス」の工場の如く、組合的若しくは準組合的模範工場たり。これ等の業務に在りては、幾分利潤の配分に預かるものを所謂業務の中堅として最も有能なるものこれを組織し、幾分は決して解雇の危険なき労働者の頭組あり、幾分別に特殊給與の段階制あり、又幾分業務停滯及び解雇の際にも尙ほ後日の就業清算を期して賃銀を繼續支給するの制度あり。

(チ)群賃銀。上陳の賃銀秩序にして社會の年齢別及び大經營に必然なる統制的組織を基礎となすとせば、今より述べんとする群賃銀制は比較的に大なる労働過程を労働者の全群に渡すべき技術的必然を基礎とせり。労働者群は協働せる若干労働者の從來の組合的關係を近世に更に發展せり。從來の労働組合に就て

は吾人既に本譯補の第四冊の **百三十八** にこれを究明したるが、この組合は決して全然消滅するに至らず。中世時代以來、鑛山業、石坑業、森林に於ける伐木業、土木業に繼續したり。伊太利の左官、東獨逸及びスラヴの農業出稼人、リッペの煉瓦工は、今日尙ほ十二人若しくはそれ以上の労働者群が一人の指揮者の下に労働するを常例となり。彼等は請取賃銀を支拂はれ、これを分配し。雇傭主は群の頭と契約を締結し、頭はその部下に對して責任を負ふ。この組織が採用せられて良果を收め得たるは、舊傳説と組合的精神と能く労働者を支配し、而して群の指揮者たる頭若しくは長が何人にも熟知せられたる確定利益を以て満足し、即ち例へば部下労働者の二倍額以上を食らず、部下労働者に對して頭たると同時に組合員たる關係を絶たざる場合に在り。ウエールズの板石坑に於けるが如く、組合員毎三四人にそれに倍數の純賃銀労働者を加へて一群となし従業せしむる場合にありても、この制度は能く持續せらるべし。群の青年賃銀労働者にして特に拔群の技倆あるものは、漸次に組合員たる地位を克ち得ることとなれり。

近世工業に至りてこの組織は屢全然別種の特徴をとれり。家内労働若しくは工場労働の形式にて労働者を従業せしむる所謂中間引受人は、或は労働者と同階級に屬するものと自ら感じ而して労働者を好遇することなしとせず。例へば主として中間引受人が手工業傳説に依て支配せらるゝが如き場合に於て然り。然れども中間引受人は貪慾飽くなき監督者とならざることを保せず、實に競争に壓迫せられて屢こゝに陥れるものあり。鑛山業若しくは工場に於て、所謂下受人、請取人若しくは職工長が大規模の請取仕事を引き受け、労働者を雇傭し且つ解雇する場合にありても、この群請取は殊に労働者が僅かに日給を得るのみ若しくは極少額の利潤分配に預かるのみなる時には概して甚しく墮落せり。かかる場合に労働者は下受人の爲めに強制せられて膏血を搾られ、而して臨時剰餘の利潤は則ち全く若しくは主として頭の囊中に收めらる。労働者殊に労働者團體が廣くこの群請取に對して抗争する所以のもの實にこゝに因せり。かくの如き形式の群労働は全然組合的精神を失ひ、企業家の権力濫用を以て労働者の骨肉を消盡せしめずんば止まざる底の小企業と毫も異ならず、即ち例へば企



業家將た製造業者が利潤の爲めにその事務員將た職工頭を統制すべき義務を捨てて顧みざるが如き亂狀を呈せざらばならざるなり。

然れどもこれと異なり、能くこの統制勵行せられ、組合的觀念が儼として存する場合にありては、群請取は今日と雖も極めて優良なる賃銀支拂形式たるを失はず。上陳の亂狀を排除せんが爲めの方法として、幾分は管理者たる職工長の賃銀を一定額とし、これやゝもすれば彼の勵精力を冷却せしむるの不便あらんも、幾分は彼をして随意に勞働者を雇備し解雇するを得ざらしめたるあり。或は勞働者をして確定率に準じて總請取賃銀を分配せしめ、以てそれぞれ確定せられたる給付能力に順應せしめんとし、幾分は又確定賃銀を支拂ひ而して比較的敏速にして優良なる勞働者に限りて格外給を與へたるものあり。ありとあらゆる支拂法を混用すると可能たり。凡そ此の如き群支拂の通常完全に行はるるは、實に群そのものが互に相識り相統制せる五人、十二人、二十人若しくは三十人の勞働者に限らるゝ場合に在り。例へば船梁に於けるが如く、群が二百人乃至四百人の多數勞働者を包含するに至りては、やゝもすれば其間に友朋的

統一的統制的精神の消滅する危険あり。

凡そ賃銀計算を更に精確に複雑に且つ妥當ならしめんとするこの種の問題は、日に益々重要を加へんとす。これ嘗に勞働者の不平の由來する所が、その常に判然目撃せる不法——詳言すれば同輩勞働者に比し勞働給付に於て勝れるにも拘らず賃銀は則ちこれに及ばざるの不法に關聯せるが故のみにあらず。否更に重大なるものあり、既に吾人の觀察せるが如く、實にこの賃銀支拂法の如何が勞働者の勤勉及び努力、全生計、精神將た道徳に看過す可らざる反動を及ぼすが故なり。最近英蘭に於て國王の命に依て設けられたる委員の勞働者問題に就て記述せるが如く、賃銀組織の存續は一方よりこれを觀れば勞働者の配分を制限するの一手段ならずんばならざるなり。

將來に於ける勞働者の賃銀支拂に關して「ベルンシュタイン」は述べて曰、社會的勤務義務若しくは自由意志に基ける勤務義務にあらざる一切の勤務給付に對しては、確定支給賃銀若しくは俸給を常則とし、恐らく何等かの格外給(收益剩餘等に對する割前)に依て増給せられ、而して國家社會全體の無償給付に依て補足

せらるべしと。余はこれに附加して次の如く言はんと欲す。曰、労働者保険設備、組合、貯蓄銀行及び其他自家の小所有より来る収入に依て補足せらるべしと。

**二百〇九** 事実上の賃銀高。吾人が上來陳述したる所は労働契約の随伴規定にして、よしその如何に重要ならんも、而かもこれを以て賃銀、賃銀高、賃銀に依て得る所の購買力に比するに、意義遙かに輕からざるを得ず。吾人は先づ事実上の賃銀を確證し、而して後舊學説が如何にこの事實を説明せるかを再び略叙し、因果的説明を以てこれを結ばんとす、蓋しこれに對し吾人は因果的説明を下し得べしと信ずるものなり。

事實を舉證することはもとより簡略ならざるを得ざれども、而かも容易の業にあらず。賃銀の種類や一二にして止まらず、之が比較は極めて困難に、舊時代將た諸國土の材料は甚だ不完全にして、苟くも総合的記述は至難の業ならずんばあらず。然れども近時これが觀察及び記述の方法を改善せんが爲めに、殆んど特殊の賃銀統計學の發達あり。貨幣にて表示せられたる換言すれば名目上の日給若しくは週給、所謂標準賃銀が實際賃銀即ち換言すれば労働者がその賃

銀に依て購買しその生計上に享受し得べき額に依て始めて判然せらるべきことは恐らく既に何人も首肯する所なり。されば賃銀統計は、貨幣價値の研究、貨幣賃銀の穀物量還元、食料品衣服家賃の價格計算、生計状態の記述に依りて補充せられ。而して賃銀研究に關する良記述が、必らずや貨幣の外に労働者の享受する自然物を、主要賃銀の外に副業的利得を、夫の賃銀の外に妻子のそれをも附加せざる可らざることは既に何人も明かに認むる所なり。されども吾人の要求する所は今日これに止まらず、而してこれに止まるべきにあらざるなり。吾人は週給、月給、年給の概算的平均額に代ふるに事實上に支拂はれたる賃銀を確定し、その計算法と、賃銀簿、聴取及び計算票とを基礎とする週額割當を確定せんと欲し。更に普通賃銀、時間外労働銀とは何か、一年間の労働日は幾日なるか、個々労働階級に屬する労働者の數と種類とは如何かを知らんと欲し、而して企業家の報告する所を労働者及び其他に尋ねて尙ほ吟味せざる可らざることを要求す。

これが科學的材料は近時幾分著しく改善せられたれども、かゝる研究の費用

と困難と容易ならざるものあるが爲めに、若し吾人にして凡そ廣汎なる比較將た貨銀學說に對する廣汎なる經濟的基礎を敢て捨て去らんと欲せざる限りは、信憑するに足るべきも而かも一局部に制限せられたる近世資料の外に、尙ほ幾分は不完全なる舊資料をも供用せざる可らず。

余は先づ文明諸國に於ける歴史的貨銀運動に關する説明より研究を進めんとす。蓋しこれ科學的に最も重要なるべければなり。尤もこゝに一言注意せざる可らざるは、余が殊に古代に關する貨銀を、比較に便せんが爲めに、貨幣よりは寧ろ小麥若しくはライ麥の一キログラムにて表示したることなり。而して又第十三世紀乃至第十六世紀の間に於ける一切の貨銀、然り第十七世紀及び第十八世紀に於けるそれも亦屢寧ろ少數労働者の臨時貨銀なること、從て現今に於けるものと比較すれば、労働者の總收入に遙かに及ばざること、即ちその高及びその運動は後代に於けるものゝ如くに重要ならざることこれなり。後段余の特に注意せざる限りは、普通労働者の平均週貨銀を取扱へるものと解せらるべく。穀物にて表示せられたる貨銀の説明として尙ほ下の如く注意する所あらんとす。

とす。

第十九世紀の科學的農民は、農奴一人の總生計費を極めて多數の場合に於ける觀察と平均とを基礎として一六〇〇乃至二五〇〇ポンドのライ麥(即ち八〇〇乃至一二五〇キログラム)と假定し。而して又家族の需要としては、小麥にて表示し、三八〇〇乃至六六〇〇ポンド(二九〇〇乃至三三〇〇キログラム)を計上せり、若し今日根本的に穀物生産に依て生活せる成人の年額實際消費穀物を二五キログラムと假定せば、二人の成人と二三人の兒童及び青年とより成れる一家族の消費額は約一〇〇〇キログラムと計上して誤なかるべく。此等社會階級に屬するものゝ穀物消費をその必要總支出の三分の一若しくは五分の一と推定せば誤らざるべし。從て總支出は一人に對し七五〇乃至一二五〇キログラム、その家族に對して三〇〇〇乃至五〇〇〇キログラムとなるべし。これを週需要に割當つれば一人宛一四五乃至二四キログラム、家族宛五七七乃至九六キログラムとなる。是れを以てこれを觀るに。吾人は次の如く斷言するも恐らく不可なからん。曰、一週の貨銀一五乃至二四キログラムなるは一人に對しては殆ん

ど十分なるを得べきも、家族に對しては到底餓死せざる能はず、五〇乃至六〇キログラムなるも家族に對しては困乏状態を脱せず、九〇乃至一二〇キログラムにして家族も十分なるを得べく、二〇〇キログラム乃至それ以上に至れば則ち餘裕綽々たるを得べしと。而してこれ又後段に掲ぐる經濟的統計と符合する所のものたり。

かくの如き假定と統計數とが如何に杜撰にして圖式的に、又その詳細に至りては消費及び欲望の相異に依り、穀物、馬鈴薯、肉、住居及び衣服の相場の差異に依りて如何に甚しき變調を來さんとも、これ尙ほ歴史的地理學的比較研究の爲めになかる可らざる概算的準據たらずんばならず。文明國に於ける勞働者に對しその生計にとりて恐らく穀物の如くに必要缺く可らざるものはあらざるべく、又相場如何に依りて穀物の如く廣く勞働者生計の程度を規定するものはあらざるべし。而して幾多の經驗的歴史的個々研究の證明する所に徴するに、勞働者の一週間購買力として穀物にて表示せられたる一五、六〇、一二〇及び二〇〇キログラムの等級は、古今を通じて勞働者生活状態の事實上の差等を大

體に表明して誤らざるなり。

英蘭に關しては、「ロロジャリス」、「カンニンガム」、「ヘウインス」、「トインビー」、「アトサトヤング」及び近代統計學者の研究に依り、吾人はやゝ信憑すべき研究基礎を有せり。吾人は次の如く假定することを得べし。曰、第十三世紀の間、勞働者(其數は未だ多からざりしが)は一週約そ三五キログラム、ベスト流行しその結果として人口缺乏したりし後時代即ち千三百四十年乃至千三百五十年の間は六〇乃至八〇キログラムの賃銀を得、而して第十五世紀の間及び第十六世紀の初葉に至りてもこの賃銀額に大變動なしと。さてこれより賃銀下落時代始まり、農民階級は頽廢し、農業は牧畜の爲めに驅逐せられ、貨幣價值には大變動を生じて賃銀はこれに應ぜず、延て賃銀下落は避く可らざる結果として起り來れり。貧民制度及び國家の賃銀統制は以て浮浪人事項及び無所有者の危急を妨止せざる可らざりき。「ロロジャリス」の假定する所に依れば、實際賃銀(貨幣にて表示せられたる賃銀即ち名目賃銀に對し)その實際の購買力を指示すは千五百年乃至千六百五十年の間曩時の四分の一に減少せり。余の計算にして誤なくんば、該

實際貨銀は平均約そ小麦三〇キログラムに相當せり。「ウィーベ」の貨幣貨銀に關する計算と「クリッシン」の實際貨銀に關する計算とに依り、これに取敢へず獨逸に於ける二三平行現象を附加すれば、名目貨銀(貨幣貨銀)と實際貨銀との割合は次表の如し。

英蘭の貨銀

エルザスの貨銀

英蘭の貨銀		エルザスの貨銀	
貨幣貨銀	實際貨銀	貨幣貨銀	實際貨銀
一四五二—一五〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一五五二—一五七〇	九八	八八	五五
一五七二—一六〇二	一二〇	一〇三	五三
一六〇三—一六五二	一四六	一二一	四〇
一六五三—一七〇二	二〇六	一〇八	四五
ミュンスターの貨銀			
貨幣貨銀	實際貨銀	貨幣貨銀	實際貨銀
一四四七—一五〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一五〇一—一五二〇	八九	八〇	

一五二二—一五五〇	九一	八七
一五五二—一五六〇	九六	七八

労働者の境遇は千五百年乃至千七百年の間殆んど歐洲全般に亘りて惡變したりしか、事實はこゝに表示せらるる迄に甚しからざりしなるべし。殊に自然物貨銀制尙ほ主として行はれ、貨銀労働者の數尙ほ多からず、小農民の數極めて多數を占め、手工業の職人の地位は手工組合の傳説に依り家内工業労働者のそれは家内工業規定に依りて保護せられたりし場合には、一般に惡變狀態は此の如く甚しからざりき。事情これと異なる場合にありて労働者の境遇は既に業に劣惡となれり。

英蘭に於て貨幣貨銀は千五百六十年乃至千七百年の間に殆んど一二〇プロツェントの増加を示せり。「カンニンガム」は平均をとりて、千六百十年に三シルリング、千六百八十五年に四シルリング、千七百二十五年に四乃至五シルリング、千七百九十五年に九シルリングと假定せり。これ一般に國民經濟の隆興したる

結果なり。實際賃銀は言ふまでもなく遙かにこれに及ばず。千七百二十五年乃至千七百五十年の間に四シルリングを以て四〇キログラムの小麥を購ひ得たるに、千七百九十五年には九シルリングを以て僅かに三〇キログラムを購ひ得たるのみ、さて千七百九十五年乃至千八百四十六年の間、生計費の暴騰に際しては、田舎(農業)賃銀は九乃至一〇シルリング、工業賃銀は一三乃至一六シルリングに、然り個々の大工業にありては恐らく二〇及び三〇シルリングに増加したりしなるべし。然れども一〇シルリングを以て僅かに小麥四〇キログラムを購ひ得るのみ、或る場合に相場に騰貴せる際には僅かに二〇キログラム若しくはそれ以下ならでは購ふこと能はず。就中賃銀下落の最も甚しきものを家内工業となす。人口は急劇に増加し來り、自然物賃銀將た舊労働秩序は既に消滅し、かくて恐慌は一時失職者を劇増せしめたり。第十六世紀及び第十七世紀に始めて賃銀が甚しく下落したりし間及びその後と比し、労働者の沈淪状態は同日の談にあらざりき。

余は英蘭に於ける最近賃銀騰貴の現象に研究を進むるに先ち、大陸諸國に於

ける類似現象を引用せんとす。

佛蘭西に於ては「マンテリエ」のオルレアンに關する研究に徴するに、普通賃銀労働者の日給は現今フラン貨にて次表の如し。

一四〇〇—一四七五 <sup>年</sup>	一四七六—一五〇〇	一五〇一—一五七五
〇・八一	〇・六九	〇・五〇
一五七六—一六〇〇	一六〇一—一六七五	一八五一—一八六〇
一・〇九	一・一六	二・二五

三十三リールに相當せる穀物一ミルネは現今貨幣にて次表の如き相場をなせり。

一四〇〇—一四七五 <sup>年</sup>	一四七六—一五〇〇	一五〇一—一五七五
二・〇九	一・九七	二・六六
一五七六—一六〇〇	一六〇一—一六七五	一八五一—一八六〇

五・九二

三・一八

六・六三

四三二

換言すれば則ち労働者は第十五世紀の間に約そ三分の一ミルネ、第十六世紀の間に五分の一ミルネ、第十七世紀及び第十九世紀に再び約そ三分の一ミルネの賃銀を得たるなり。「モロー・デ・ジョンネ」及び「ブォーヴェイル」の計算に依れば、第十八世紀の間、營養を十分ならしめんが爲めには恐らく十五ヘクトリテルの小麦を必要とせる農業労働者家族の賃銀は次表の如し。

年賃銀	一七〇六年	一七八九	一八一三
十五ヘクトリテルの相場	一八〇フラン	二〇〇フラン	四〇〇フラン
賃銀の食料に対する割合	二八三フラン	二四〇フラン	三一五フラン
	〇・六三	〇・八三	一・二七

これに依て佛蘭西に於ける田舎人口の大部分は、千六百五十年乃至千七百八十九年の間、營養劣悪にして最も甚しき沈淪状態に陥りたること判然たり。

獨逸に於ける賃銀運動の歴史的行程に關する統計に就ては、余は既に上に掲げたるもの外、尙ほザンテンの教會建築史に關する「ステファンバイセル」の研究を引用すべし。次表統計數は幾分直接に「バイセル」より引用し幾分は彼を據として更に計算したるものなり。ザンテンのデナール貨にて表示すれば日給は左の如し。(一デナールは現今貨にて二七ブフェンニゲに相當せり)。

親方一人	一三五六一—一三九九	一四五〇—一四九九	一五五〇—一五九九
鋸夫一人	二三デナール	三六	七二
親方一人	二五	二五	七五
鋸夫一人	一六〇〇—一六四九	一六五〇—一六七九	一八八二
親方一人	一六六デナール	二〇〇	八二〇
鋸夫一人	一五五	一八九	六八〇

一週間の親方の賃銀(上表の額にて)を以て購買し得べき小麦、ライ麦及び大麦は次表に掲ぐるが如し。但しキログラム單位。

一三五六一—三九九	一四五〇—一四九九	一五五〇—一五九九
一五〇	一〇〇	四八
一六〇〇—一六四九	一六五〇—一六七九	一八八二
六六	七八	七八

第十六世紀の間獨逸に於ける實際貨銀の下落は、爾他幾多の研究に徴するも亦明白なる事實なり。大戦争の後人口缺乏せる結果として實際貨銀に騰貴ありたれども、その額は著しからず。大體に於て貧民級階の生計は困乏状態を脱せず、殊に千六百年の頃、日雇人の週賃銀がライ麥四十乃至五十キログラムに下落したる場合に於て然りとす、例へばザクセンに於けるが如きこれなり。第十世紀に於て、田舎の賃銀として行はれたるもの、東部にありては一三乃至一八グロッツェン(即ち二五乃至三〇キログラム)、西部にありては三〇グロッツェンなり。貨幣貨銀の相異は決して實際貨銀のそれを示すものにあらず。都市の賃銀は三〇乃至四八グロッツェンなり、繁榮せる工業に於けるものは四八グロッツェン、而して幾分尙ほ騰貴し三、四、五ターレルの週賃銀となれり。一五グロッツェンは

二五キログラムに等しく、四ターレルは週賃銀ライ麥一〇〇キログラムに相當す。

第十九世紀の前半を通じて獨逸に於ける賃銀は小變動をなせるのみ。田舎に於ては東部は日給四〇乃至五〇グレンニゲ、西部及び富裕地方は七〇乃至一〇〇グレンニゲ、窮乏状態に陥れる工業、紡績業、織布業にありては幾分千八百年以前の賃銀にも及ばず、繁榮せる工業に於ける賃銀は既に日給一二マルク、一八マルクとなり、然り幾分尙ほ騰貴せり、而してライ麥相場にて毎シエッフェル即ち毎四〇キログラムは二五乃至四マルクなりき。農業賃銀三マルク(日給五〇グレンニゲ)とすれば、一シエッフェルの相場にして二五マルクなれば、労働者の實際賃銀は四〇キログラム以上を得べく。若し四マルク乃至それ以上の相場なれば、實際賃銀は僅かに二〇キログラム餘のみ。工業賃銀は日給一八マルク、週賃銀一〇八マルクとせば、ライ麥の相場にして上述の如しとし、一六〇キログラム、若しくは一〇八キログラムを得る割合なり。千八百四十年乃至千八百六十年の間、生活資料は暴騰したれども賃銀は一般にこれと歩調を二にせず、殊に千八



百四十五年乃至千八百五十五年の間に於て然り。この故に多くの労働者は極めて窮乏状態に陥れり。週賃銀一〇八マルクとするも當時の相場にして僅かに五〇乃至六〇キログラムを購ひ得べきのみ。三マルクに至りては實に八乃至一〇キログラムを購ひ得るに過ぎず。この時代は中部高獨逸及び高シレジェン一般に労働者の危急状態に沈淪したる際に於て、更にこの状態にて引き續かば或は其地方一帯の労働者は餓死の惨状を呈したりしやも測られざりき。

然れどもこれ獨逸に於ては除外例なりき。余の信ずる所を以てすれば、ベルギエン及びホルランドに於ける當時の賃銀は尙ほ更に低廉に、佛蘭西にありては革命以來根本的に改善せられたり。英蘭に於ては千八百四十年及び千八百五十年まで労働者階級の生計は、其の下二分の一は恐らく大陸一般よりは劣惡に、然れどもその上二分の一は既に改善せられたり。ト、トクノ示す所に依れば、千八百〇四年、木綿紡績業の労働賃銀は麥粉にて五八キログラム、千八百十四年には八二五キログラム、千八百二十三年には一〇五キログラムなりき。手織工の賃銀は當時(千八百三十一年まで)一週間一六より六シルリングに下落したるこ

こと敢て説明を俟たず。

英蘭に於ける農業労働者の一週賃銀は、これがオーストリアたる「ケアード」の概算に依れば、平均次の如し。即ち千七百七十年には七シルリング、千八百五十年には殆んど一〇シルリング、千八百八十年には一四シルリング。然れどもこの世紀の間別に自然物給與及び牧場、低廉住居等の利益が廢止せられたることを忘る可らず。労働局の規定せる賃銀平均額は、千八百五十年に九シルリング、千八百五十年に一四シルリング、千八百九十九年には殆んど一四シルリング、換言すれば千八百五十五年乃至千八百九十九年の間に二二プロセントの増額あり。されども當時一クアルテルは七四乃至七五シルリングの相場にして、今日の価格は則ち二五乃至二六シルリングなり。千八百五十五年には一一シルリングを以て三五乃至三六キログラムを購ひ得たるに過ぎざれども、千八百九十九年には一四シルリングを以て一一七キログラムを購ひ得たり。平均一四シルリングは南部の一ニシルリングと北部の二〇シルリングとを總和平均したる結果なると勿論なり。而して凡そ公平なる報告者は二〇シルリングの賃銀を以て

労働者の生計を十分に維持し得べしとは信ぜざるなり。換言すれば即ち農業労働者はこれに加ふるに若干の自己經營若しくは年功恩給を得ざる可らずとす。

農業賃銀の増加は、地方、土壤、勤怠に應じて一様ならざりしが、工業賃銀の増加が個々工業、その隆替及び經營形式の如何に從て區々たりしことはこれよりも更に甚し。これに關する第一流のオーソリテ、たる學者か換算する所に徴すれば、大體に於て千八百四十年より千八百九十年に至る間に約そ六〇乃至八〇プロセントの増加あり、而してその間に三〇乃至一五〇プロセントの差等あり。千八百二十年乃至千八百五十年の間、週賃銀の重心點は一三乃至一六シリングの間在りしが、現には二〇乃至三五シリングの間に動搖せり。最も顯著なる騰貴は千八百四十年乃至千八百七十五年の時代に當れり。其後賃銀運動は緩徐に、幾分停滯し、而して千八百八十七年乃至千八百九十一年の間及び千八百九十六年乃至千九百年の間に再び起れり。ウエブ夫妻の言ふ所に依れば、職工組合の存せる處に於ては賃銀は二四シリングと七二シリングとの間に動搖し。或る學者の調査に從へば、千八百三十七年ランカシャーに於ける木

綿紡績業の労働者か得る所の週賃銀は、小麦粉一三三キログラム、千八百九十年には二〇〇キログラムとなれり。「シユルツゲヅェルニツ」は紡績業労働者家族（夫婦及び子供）の収入を一〇一乃至二四四磅即ち換算すれば二〇六三乃至四九八〇マルクと計上せり。「ナッセ」に依れば、石炭坑夫の優良なるものは最近二十年間その賃銀に極めて甚しき動搖あり、年額平均は五四磅及び九〇磅即ち換算すれば一一〇三乃至一八四〇マルクの間動搖せり。「ウード」の統計に從へば、千八百六十年乃至千八百九十一年の間、個々工業に於ける賃銀騰貴は、千八百六十年のそれを一〇〇と假定せば、羊毛工業に於ては一五となり、鐵工業に於ては一三五となり、機械工業に於ては一八六となり、建築工業に於ては一三八となり、船夫のそれは一四三となり、鑛山業に於ては一五〇となり、木綿工業に於ては一七六となれり。「ギッフェン」の概算に徴すれば、農業労働者を合算して七百萬乃至八百萬の英蘭成年労働者の中、二三六プロセントは二〇シリング以下の賃銀、六九六プロセントは二〇乃至三五シリング即ち換算すれば年額一〇六〇乃至一八六〇マルクの賃銀、而して三五シリング以上の賃銀を得

る者は僅かにその六ニプロツェントのみ。ノステイツは三五シリング以上の賃銀を得る所の労働者階級を一五プロツェント、一五シリング以下のそれを六乃至一二プロツェントと假定せり。勞銀状態は千八百六十年以來非常の進歩をなしたれども、尙ほ未だ最も寒心すべき状態を脱するに至らず。例へばブリスの言ふ所に依れば、六十五歳以上の一切労働者の四五プロツェントが貧民救済制度にその身を托せるが如きこれなり。婦人労働及び兒童労働の夥しき増加に依り將來生活危急に脅かさるゝ労働者群は益々大多數となるべし。あらゆる改善と保険制とあるにも拘らず、市況の動搖常ならざるが爲め、生存の安固は殆んど何等の加ふる所なし、實に大輸出工業に於て然り、而して生活の不安は何處にも十分に撤廢せられざるなり。

尙ほ佛蘭西に關し上に掲げたる統計を補足して附言せん、その農業労働者一家族の賃銀は、千八百十三年に四〇〇フラン、千八百六十年に五〇〇フラン、千八百七十年乃至千八百七十五年の間に八〇〇フランと概算せられ、この家族に必要な生計費の一五ヘクトリイタルは、この期間に三一五フラン、三〇五

フラン、三四五フランの相場なりき。ルロアポリイに依るに、巴里の麵粉製造工賃銀は、千八百三十年に二六フラン、千八百五十四年に三〇フラン、千八百六十七年に三八フラン、千八百八十年に四五フランなりき。シエヴァリエーの計算に依れば、それぞれの工業部門に應じ、千八百四十年乃至千八百八十年の間、賃銀増加率は四〇乃至二〇〇プロツェント及び三〇〇プロツェント、而して此期間に麵粉相場には變動なく、肉は五〇プロツェント、牛乳は二五プロツェント、家賃は一〇〇プロツェントの増加あり、衣服及び香料はこれよりも遙かに高率の減價あり。鑛山業労働者の年平均賃銀は、千八百年に約三〇〇フラン、千八百十五年に五九三フラン、千八百七十七年に一〇〇二フランなりき。シエヴァリエーの研究に依れば、地方に於ける賃銀の増加は大都市に於けるものゝ如くに著しからず。然れども低級賃銀階級即ち單純なる手工將た婦人労働は、精巧熟練の男子労働者に比し寧ろその價値を増大せり。

獨逸に於ける賃銀騰貴は五十年代に及ぶまでは言ふに足らず。たゞ個々の領域及び個々の工業に於て既に若干の騰貴ありたるのみ。千八百五十年乃至千八

百六十五年の貨銀騰貴も殆んど生計費騰貴を補ひ得て餘あるまでには至らず。始めに顯著に且つ一般的に騰貴したるは、千八百六十五年より千八百七十五年の間に在り。其後再び幾分下落を來たせるが、尙ほ更に千九百年までは適當に改善せられたるを觀る。千八百四十九年、千八百七十三年及び千八百九十二年に行はれたる農業調査に準據し、余は東部プロイセンの六州に於ける自由農業労働者の週賃銀を、貨幣及びライ麥のキログラムにて次の如く表示せんとす。

四四二

千八百百年	二・四マルク	大略等量	三〇キログラム
千八百四十九年	三・四・二マルク	同	四五・六キログラム
千八百七十三年	四・八・七・二マルク	同	六〇キログラム
千八百九十二年	七・〇・九・〇マルク	同	

「ゴルト」に依れば、ボンメルン及びメクレンブルグ、オルデンブルグ、オーベルバイエルン及びニーデルバイエルン、更に又ウルトンベルヒ、プファルツ及びラインプロイセンに於て、千八百七十三年農業日雇人の週賃銀は、ライ麥にて

五四乃至六九キログラム、シレジエンに於ては僅かに三〇キログラム、ボーゼン、ウンテルフランケン及びオーベルプファルツに於ては三六乃至四五キログラムなり。換言すれば即ち最高實際賃銀の行はるゝは、一には尙ほ舊自然物賃銀制の主として實行せらるゝ地方にして二には貨幣經濟が最も早く且つ最も完全に施行せられたる地方なり。インスト(インストマン若しくはインストロイテ)のこと、前に屢掲げたり)の家族が收得する所の年額賃銀は、千八百四十九年東部に於て三〇〇マルク、千八百七十二年乃至千八百七十五年の間に六六〇マルク、千八百九十年に七〇六乃至一〇〇〇マルクと概算するを得べし。これが收入は北東部に於ては、自由農業労働者の收入に遙かに勝れり。北東部にありては自由農業労働者は最も低級の労働者體型たり。これに反しその南西部に於けるものは、「ゴルト」の統計に徴するに、自由無所有の農業賃銀労働者は、若干の自家所有を經營せる労働者と極めて相近似せり。

工業上の賃銀報告より余は次の如く引證せんとす。イーナの植字工は、千七百十七年乃至千八百四十七年の間を通じて一百萬人に上れるが、各二四乃至二

六シエラフェル(ライ麥にて)の賃銀を得、同一労働給付を以て千八百六十年には四八シエラフェル、千八百七十一年には八三シエラフェルの賃銀を得たり。八三シエラフェルのライ麥は一週一六五マルク若くはライ麥一〇〇キログラムに該當する額なり。ザクセンに於ける第一流の製靴工は、千八百五十六年乃至千八百五十七年の間に六一八マルク、千八百七十一年乃至千八百八十年の間に一二一七マルク、千八百八十年乃至千八百八十六年の間に一一一三マルクの週賃銀を得たり。ライン・ウェストファレンの鑛山労働者(坑夫)の年平均賃銀は約そ次の如く表示するとを得べし。即ち千八百六十五年に六〇〇―七〇〇マルク、千八百七十四年に九〇〇―一〇〇〇マルク、千八百八十六年乃至千八百八十八年の間に八〇〇―九〇〇マルク、千八百九十年に一一〇〇―一二〇〇マルク、千八百九十六年乃至千八百九十九年に一三〇〇―一五〇〇マルクこれなり。ベルリンに於ける左官の日給は、千八百四十八年乃至千八百五十年の間に二―二五マルク、最近十年間のそれは四、五及び六マルクなり。

余は尙ほ傷害保険統計を據として、獨逸労働者の年平均賃銀に關し二三の數

字を掲ぐべし。尤もこの統計は老若男女を區別せずその平均を計上せるものされば所謂計上し得べき賃銀のみを問題とし、從て高級賃銀階級に對しては根本的にその實際額に及ばざるなり。

鑛山業	金屬工業	機械工業
マルク	マルク	マルク
千八百九十五年	九二七・二四	八一六・〇九
千八百九十九年	一〇七一・七八	九〇三・八八
化學工業	織物工業	製紙工業
マルク	マルク	マルク
(二八九五)	八〇九・七九	六〇〇・二九
(一八九九)	九六八・一五	六五五・四九
		七二六・八四
		六二三・二三
		七〇一・四六

尙ほベルリン統計年報に依りて、千八百九十七年に於けるベルリンの男子賃銀年額を表示すれば次の如し。單位はマルクとす。

最高賃銀	石切匠	金屬匠	通條製造工	左官
	一八〇〇	一七〇〇	一〇八〇	一九二〇

高銀貨の上實事

最低賃銀	平均賃銀	(最高)	(最低)	(平均)
六九三	一三三一	一五八六	九一〇	一二〇〇
屠殺職人	一三八二	一五〇〇	一三五〇	一四七二
醸造工	九二〇	五七八	五六〇	五六九
製靴手工	一三三二	一〇四六	九八〇	一〇一四
理髮師	八七五			

四四六

千八百九十二年乃至千八百九十九年の間獨逸に於ける穀物相場を標準とすれば、六〇〇マルクを以てライ麥四六〇〇キログラム、小麥三八〇〇キログラムを購ひ得べく、一〇〇〇マルクなればライ麥七六〇〇キログラム、小麥六四〇〇キログラムを購ひ得べし。之を週賃銀にして七三一—一四六キログラムとなり、若し一五〇〇マルクとすれば一週二〇〇キログラム以上となる割合なり。夫の年額賃銀六〇〇—一二〇〇マルク、而して多數家族と共に勞働せる限り一〇〇〇—一五〇〇マルクの家族年賃銀は、恐らく現今獨逸に於ける工業賃銀の平均額と認むることを得べし。この収入は十八歳乃至二十五歳の未婚勞働者にとり

\*本日の世帯の平均 三二そのる證をこの本  
銀賃働勞及び契働勞・法働勞・保働勞

ては過大額と稱すべく、家族より觀るも一〇〇〇マルクの年賃銀にては屢困乏生活を免かれざるも、一五〇〇マルクなれば既に餘裕綽々たるものあるべし。何れにしてもこれ大體に於て小農民及び手工、靴工親方及び下級官吏のそれに匹敵すべき賃銀なり。若しそれ家婦が節約に、夫が飲酒せず、住居關係も亦敢て不利ならざらんか—進歩の行程管にこゝに止まらざるなり。

獨逸の賃銀は英蘭のそれに及ばざれども、和蘭及び伊太利、埃地利及び露西亞の賃銀は獨逸のそれに同じ。和蘭及び伊太利に於ける賃銀は、人口稠密なる舊文明國將た舊家長制的勞働者階級のそれに相當せるものなり。埃地利及び露西亞の賃銀は、その懶惰なる自然物經濟より始めて貨幣經濟に發展したる状態の結果にして、貧民階級の窮乏生計は則ち技術上に幼稚なる給付能力に相當せり。然れども舊半開國土たる印度、支那、日本<sup>\*</sup>の賃銀はこれと全然同一に論斷す可らず、これ等の國土にありては國民の大多數はもとより甚しき無欲望状態を脱せざれども、屢又非常の勤勉と固有の技巧とを伴へり。人力の浪費せらるゝこと未だこれ等の國土に於け

四四七

るが如きは他に類例を見ず。苦方を使役して人間を輸送せしめ、重荷を曳かし  
ひること、家僕其他扈從の輩の過多なること―かくの如きは毫も珍とするに足  
らず。則ち然りと雖も近時交通及び近世的技術の増進するに伴ひ賃銀も亦著し  
く増加せり。而かも尙ほ獨逸の實際賃銀は日本のそれに比し二・五倍乃至三倍に  
當れり。

反之北亞米利加合衆國、濠洲、ニュージーランドの賃銀は歐羅巴のそれに比し  
遙かに高けれども、その實際賃銀に於ける相異は貨幣賃銀即ち名目賃銀に於け  
るが如くに甚しからず。かくて「ウォーカー」の統計に係かれる地理學的賃銀差等は、  
印度の日給一〇仙を以て始まり、北亞米利加合衆國に於ける一・五〇弗を最高賃  
銀となし。近時亞米利加合衆國の國務卿が農業労働者の年賃銀として掲ぐる所  
は、印度に於て一五〇フラン、伊太利に於て二五〇フラン、露西亞に於て三〇  
〇フラン、獨逸は四五〇フラン、佛蘭西は六七五フラン、大英國は七七五フラ  
ン。北米合衆國は則ち一二五〇フランに當れり。更に近時の統計、例へばカン  
サス州の鐵道労働者に關するもの如き、年収入は三八六乃至八六五弗―換算

すれば一六二一乃至三六三三マルクの間<sup>に</sup>動搖せり。北米合衆國及び英蘭殖民  
地に於て日給五―一〇シリング、週賃銀三〇―六〇シリングとあれども、  
これに就ては一にその生活費が如何に多大なるか、二にこの賃銀が概して如何  
に不規則的なるかに注意せざるべからず。若し一ヶ年間三百日に代ゆるに二百  
日に對して賃銀を得るものとせば、既にその事情のみを以て五〇プロツェント高  
き賃銀となるべし。(こゝに相殺的結果を免かれざるなり)。労働雜誌に千八百九  
十九年掲載せらるゝ所に依れば、高賃銀を支拂はるゝ熟練労働者は、トラスト  
會社より三〇〇マルクの年賃銀を、その不熟練労働者は一四九〇マルクのそ  
れを得、而して合同(フジオン)の未だ發達せざりし當時のそれはそれぞれ僅かに  
二六三〇マルク、一二五〇マルクに該當したるのみ。西歐羅巴の優良労働者と  
亞米利加労働者との間に於ける生計及び賃銀(實際賃銀)の相異は、一對二を越え  
ざるべく、屢僅かに一對一・五に過ぎざるべし。

歐羅巴の一國家内に於て地方に依りて如何に賃銀に相異あるかは、その英蘭  
の農業賃銀に關するものは吾人既にこれを説明したり。獨逸に於て、疾病貯金の

爲めに官廳より規定せられたる日雇賃銀は、郡を異にするに従ひて一樣にあらざ。千八百九十一年男子は東部に於ける八五プフェンニゲと西部に於ける三二五マルクとの間に動搖し、婦人は〇・五〇マルクと二マルクとの間に動搖し。千九百〇二年に於けるものは男子一・一〇及び三マルクの間、婦人〇・七〇及び二マルクの間在り。同一地域、同一労働及び同一群賃銀(請取賃銀)率なる場合にも、人種を異にすればそれぞれ賃銀に著しき區別あり。千八百九十二年ポイランドに於ける状態は、同一の土地にて同一の労働をなすにも拘らず、獨逸人は日給六―八マルク、ポイランド人は二・五―三・五マルク、露西亞人は一・五―二マルクなりと稱せらる。

婦人の賃銀は殆んど一般に男子のそれに比し二分の一乃至三分の二の間に在り。都市の賃銀は田舎のそれよりも高く、冬期田舎に於けるものは夏期に於けるものより低し。同一工業にして一見同一の業務なるが如き場合にも、これを精密に吟味するに従ひ甚しき賃銀の相異を發見せずんばあらず。ベルリンに於ける處女の一週賃銀は主として八マルク乃至一二マルクの間在れども、尙ほ

この外に六乃至二五マルクの間動搖し、而して同一工業にありても、技巧の熟練如何と取引の範圍と顧客の貧富如何とに應じてかくの如き著大の差等あり。メランの或る織布業に労働せる四百四十四人の労働者の中、千八百七十六年乃至千八百七十七年の間、年賃銀の最も低きは三二三マルク、最も高きは八七四マルク、而してその三百人は四五〇乃至六〇〇マルクの間あり。近時等級別賃銀統計の重視せらるゝはこれが爲めにして、これ寔に當然のことに屬せり。例へば「ウエリスホップフル」がマンハイムの工場労働者に關して調査せるものゝ如きこれにして。即ちそれに依れば、男子労働者の五六二プロセントは平均週賃銀一五乃至二四マルク、その二〇九プロセントは一五マルク以下、その二二九プロセントは二四マルク乃至三五マルク以上に該當せり。吾人若し獨逸の手工業及び工業の一系列に於ける週賃銀を比較せば、その平均男子労働力に關する限りは、例へば、ベルリンにありて籃屋は一ニマルク、製靴工は一四マルク、織布工は一五マルク、大工は二六マルク、石板工は三一マルク、石像工は三五マルクを上下し。諸地域及び諸労働者に係かる各職業組合の新統計を觀るに、指物師



は一四—二二マルク、製本師は六—五〇マルク—多くは一五—二〇マルクの賃銀に當れり。千八百九十年船夫の一ヶ月賃銀は、シュレースウイッヒホルシュタインに於て通じて四四マルク、ウーゼル河にて五一マルク、エルベ河并に自由碇船所に於て七二マルクなりき。概して大取引及び大工場にありては、今日殆んど大規模なる國家官僚の俸給等級にも匹敵すべき程の賃銀等級制行はれ。千八百八十七年に於ける一ベルリン印刷業の精細なる賃銀統計に依れば、徒弟は一—一〇マルク、通常労働者は二—三マルク、殖字工は五マルク乃至それ以上、屢七マルク、或は時に一二マルク、職工長九二〇マルク、機械監督一—二二マルクの日給を得、然り而して千八百八十九年ウルトンベルヒに於て、最低給の官房員は八九〇乃至一〇〇〇マルク、一切官吏の大多數は二〇〇〇乃至五〇〇〇マルク、高給を受くる少數官吏は六〇〇〇乃至一〇〇〇〇マルク若しくはそれ以上の俸給を得たり。「トクヴィル」に依ればその當時即ち約千八百三十五年の頃、最低俸給と最高俸給との範圍は、亞米利加の財務官廳にありては三七〇〇乃至三二五〇〇フランの間に亘り、佛蘭西の大藏省にありては一五〇〇乃至八〇〇〇フラン

ランの間に亘り、今日に於ては曩時佛蘭西の高俸給は約そ三分の一額減せられ、而して低俸給は悉く増加せられたり。巴里の都市行政に勤むる最低給の労働者及び事務員は、一二〇〇乃至一六〇〇フランの年支給を受け、内閣員は一六〇〇〇フランの年俸を給せらる。ベルリンに於ける通常労働者とフョールウルトの主筆との間、社會主義的巴里自治體の支給せる最高俸給と最低俸給との間、現在に於ても過去にありてもその差等は少なくとも一對一〇の割合をなせり。イナに於ける「ツァイス」の工場も亦近時これに類する規定を設け、該工場の第一支配人と雖も男子良労働者と比し十倍以上の年俸を受く可らずとなす。「ポリビウス」時代に於て、羅馬の大尉は兵士の給與に倍加し。第十六世紀にありて、歩兵は月給四グルデン、曹長は一ニグルデン、大尉は四〇グルデン、大佐は四〇〇グルデンの月給を得たり。第十七世紀に至りては差等これよりも遙かに少なし。歴史的地理學的に差等あり且つ工業部門それぞれに相異せるこれ等若干の統計は、以て完全なる賃銀等級の全體貌を闡明するに足らざるや言を俟たず。これが全體貌を判然證明せんことはこゝに不可能なり。然れども望むらくはその

大體に於て實際に順應せる限りは、以て吾人をして舊貨銀學說が恐らく偏頗に貨銀運動の歴史的個々形相に準據したるものなるべきを判然せしむべく。然り而して更に吾人をして大體に於て貨銀運動の原因に關し、現今の事情に順應せる判斷を下さしむるに足るべし。

二百十

舊貨銀學說。千八百七十年頃までの貨銀學說は吾人の上來記述したる歴史的事實に準據したるもの、先づ千五百年乃至千七百五十年の西歐羅巴諸國に於ける状態より抽象せるもの、次では千七百五十年乃至千八百七十年のそれより抽象せるものなり。

千七百五十年に至るまで勞働關係に關する學說は何等かの一般的寫象を基礎とせざるものなく、依て極貧勞働者階級の沈淪は當然なるが如くに見做された。獨逸の英雄物語に依れば、抑社會階級別はハインリッヒ神が種々の婦女と婚せる結果として(それぞれの婦女の出が一階級をなして)成立し、其後基督教會は階級別を以て神の攝理に歸因せしめたり。尤も特殊階級たる貨銀勞働者は容易に起らず、第十四世紀乃至第十八世紀の間は、貨銀勞働者は小農民、手工及び

家内勞働者と區別せられず、總じて貧民と稱せられたり。「アダムスミス」と雖も尙ほ貧民と勞働者との間に差別を認めず。一括してこれを呼ぶに 'labouring poor' (勞働貧民) の名を以てしたり。然り狹義に於ける貨銀勞働者階級は第十五世紀より第十九世紀に至る間に徐々として始めて現はれ來れるものなり。

社會の一般意識及び斯學は第十八世紀に及ぶまで根本的に上流階級のみを問題とし。その隆興は即ち社會に重要な意義ありと認められ。乞丐窮民の漸く社會に増加せんとするに及んで貧民法の制定となり、貧民階級の沈淪生活は久しく顧みられざりき。貨幣貨銀の騰貴する限りは、これ一つの反逆と見做され、なるべく法定貨率に依りて抑制せざる可らずとなせり。貧民、日雇人、農民は賤民として蔑視せられ而してその一旦激情の野蠻なる破裂に至らんとを恐怖せられたり。要之概して懶惰にして無智而かも腕力に秀でたる社會民衆を制御し、これをして暴行に出でしめざらんとは、國家及び教會の主要任務たりしが如し。次で第十八世紀の自由合理主義はこの思想に一種の系統を立て。「マンデヴィル」は説いて曰、凡そ富國の利益は社會の大民衆が無智且つ貧困なるに在り。智識

は不満不平の因たり、労働賃銀多からざれば労働者をして絶望し且つ無氣力に陥れしむるとなし、労働の餘りに高きは懶惰を效す所以なり。既に奴隸制を廢止せる自由國家に於て、勤勉なる貧困民衆の存在は則ち最も確實に富を效す所以なりと。「アダムスミス」に至るまでの時代に屬する最も著名の學者は皆かくの如き供述に一致せり。既に「ペティ」は穀物相場の低廉なるは不幸なりと叫び、而してその理由は穀物廉價なれば労働者は怠惰に流ると言ふに在り。これと等しく「フランクリン」、「テンブル」、「デザイト」、「アトサーヤング」等も亦労働者を勤勉ならしめんが爲の手段として食料品税の附課を提案せり。一般に貧困なる労働者階級は文明國民に隨伴すべき自明且つ不可避の現象なりと認められたるが如く。「ジャンバプティストセイ」にして尙ほ次の如き言あり。曰、労働者階級の沈淪生活は國家の經濟的發展より觀れば、生産を低廉ならしむる殊に好都合の状態なりと。然れども哲學的自由主義を懐ける高尚なる人士は、労働者の沈淪状態をかくの如く必然視すると同時に、又同情を禁せず、而してかくの如きは果して不法ならざるか、これを變ずること不可能なるか、更に別の説明を下すべき餘地存

せざるかに就て疑へり。千七百六十九年「テュルゴ」は主張して曰、賃銀の低廉なるは労働者相互の競争の結果なり、從て辛うじて生計を維持せしむるに過ぎずと。千七百七十五年「ネケール」は説いて曰、貧民の困苦は富者これが因たり、少數の富者は權力を把持し、相競争せる多數労働者に對して自由にその法律を強制することを得と。かくて彼はこの状態の苛酷に且つ暴戾なることを訴へたり。「アダムスミス」も亦不判明なる法律哲學的愁訴を以てその意見を述べて曰、若し土地財産と資本財産とこれあることなかりせば、恐らく賃銀は常に何等の差引なく労働生産の全額を收め得べく、常に労働生産力の進歩に應じて増加すべし。然るに賃銀労働者階級は相互に競争し、而して暗黙の間に容易に一致する所の少數雇傭主に常に對立するの不利に陥れり。則ち然りと雖も——かく一轉して「アダムスミス」は悲觀説より樂觀説を採るに至る——労働者家族に必要な生計費は賃銀最低極限の抗堰たり。而して賃銀のこの極限より高きことは一再にあらざ、殊に隆興國民の間に於て然り。たゞ國民經濟の停滞状態に際しては労働者は辛うじて生命を維持し得べきのみ、その退歩状態に至りては極めて憂慮すべき現

象を呈せずんばならず、人口は増加し労働機會は減少し困難こゝに二重に加はると。「アダムスミス」はその當時に於ける英蘭の状態を準據として、生計は自然に改善することを得べく、依て賃銀の増加に伴て労働者は營養を更に良好ならしめ、同時に一層勤勉に有勢に且つ有效なるに至るべしと主張し。而して概して人口の自然調節てふ機械的作用を信じて悲觀する所なかりき。曰、一般需給現象と等しく、労働力に對する需要はその生産を調節し、苟くも労働者に對する需要の増加は人口を増加せしめ、その減退は則ち人口を減少せしむと。吾人思ふに「アダムスミス」のこの主張は樂觀主義的寫象を眼目とし、即ち經濟的社會の仕組みが善意ある神の攝理に俟つものと信じ、市場現象の運動に依りて商品及び労働力は適當に供給せらるべしとなせるなり。千六百五十年乃至千七百七十年の間英蘭に於ける賃銀現象の好況は、「アダムスミス」をしてかくの如き見解をとらしめたる主要基礎をなせるもの。次で千八百五十年に至るまでの賃銀下落は、「アダムスミス」の後繼者を支配し、後繼者も亦「アダムスミス」と等しく絶對的に市場の需給數量より賃銀現象を説明し去らんとし、而して苟くもこの自由

運動に對する干涉を不可と難じたり。

「リカルド」は人口増加よりも急劇なる資本増加に依り且つ益高尚醇美なる欲望に馴致せしむることに俟ちて、賃銀騰貴の不可能にあらざることを論じたるが、その當時に於ける労働者階級の沈淪状態に顧み、更に附言して曰、市民社會の自然發展にありては實際賃銀(名目賃銀に對して言ふ)は下落の傾向を有し、労働力の供給はその需要よりも急劇に増加す。生活資料の相場は騰貴し、こゝに地代の騰貴及び穀物相場の騰貴に伴ふ賃銀の騰貴の爲めに企業家の利潤は愈減削せらるゝの危険あり。資本は増加せず。労働者に對し支拂はれたる賃銀は直に生産費用に屬す。然り而して國民の總利害より言へば國民の純收益にして増大せざる限り全く樂觀するに由なきなりと。思ふに「リカルド」のこの曲言は殆んど賃銀を減削せんことを要求するもの、然らずんば則ち労働者の幸福の如きは敢て顧みざらんとするものなり。

「スミス」「リカルド」學說の要素たる「自然賃銀」としての生計將たその資本運動及び人口運動に應ずる向上と沈淪とは、千八百二十年乃至千八百六十年の間に於け

る資本主義的學說及社會主義的學說の繼承する所となり、即ち前者は思想の含蓄甚だ貧弱に、後者はユートピア的推論を以て、總じて樂觀主義的傾向よりは寧ろ悲觀的傾向に陥れり。

市民的(資本主義的)學說は、當時の人口増加と低賃銀現象とに影響せられ、概して「リカルド」の悲觀説を遺憾なく發展したり。例へば「ジョンステアルトミル」の如きこれなり。「ミル」の考ふる所に依れば、賃銀を規定するものは人口對資本の關係なり。生計の沈淪はその進歩よりも遙かに容易なり。人口増加をして今よりも緩徐ならしめんことは可能なれども、それが爲めには必らずや豫じめ大規模の國家的殖民と相俟て教育組織を全く一變し、而して全く新たに高尚なる人間を創造せざる可らずとなり。教科書及び袖珍書の多くは最近時代に及ぶまでこの思想行程の外に出でず。所謂賃銀基金學說は、既に「スミス」及び「リカルド」の暗示せる所、「セニオル」の大に發達したる所なるが、亦この見解の一枝葉に過ぎざるなり。抑この見解に由て生ずる寫象は、凡そ如何なる國民にも、それぞれ一定の時代には、利潤率及び資本金家と労働者との間に於ける總生産の分配と云ふ

が如き國民經濟的原因に依りて確定せらるゝ一定資本量あり、この一定資本量は労働者の人數と相俟て賃銀額を規定するものなりと言ふに在り。この結果は則ち該資本量は賃銀の高を規定するに於て何等の假措する所なく、労働者の要求も合同もこの一定量を増減すること能はず、高々労働者の一部分が他の労働者を犠牲に供して比較的高き賃銀を獲得するに過ぎざることとなる。或はこれが爲めに労働者を承服せしめんとして、高利潤及び低賃銀は労働者にとりて常に損失ならざるのみならず却て利益なりと説き、その理由としてこれ賃銀基金を増加すればなりと號せり。多くの學者はこの學說を裝はんが爲めに樂觀主義的色彩をも用ひ、即ち曰、資本は迅速に増加し、加之その利殖に依りて人口の増加より更に急速に増加すべく、而して労働者の境遇は必然の結果として改善せられずんばあらじと。

賃銀基金學說は一には價值に及ぼす數量作用を過重視したる結果にして、二には労働需要を規定せる究竟原因と第二次的介在原因とを混同したるものなり。労働需要の究竟原因は労働給付に對する消費者(即企業家)の購買力に在り。この

需要を充足すべき爲めに企業家の資本は單に一つ的手段に過ぎず。如何なる企業家と雖も常に労働者賃銀の支拂に供し得べき確定資本量を準備せるはならず。企業家はその必要に應じて労働者に支拂ひ、技術の進歩状態と豫想せる販路とに應じて必要なるだけの労働者を雇傭し。これが爲めに自家資本にて足らざれば信用に依りて他より資本を融通す。彼は苟くも近き數週間の爲めに立案して、賃銀支拂を計算し、如何にしてこれが資本を調達するかを決せざる可らず。これが立案はもとより資本市場の運動及び信用過程と關係せり。然れども資本市場の運動は究竟の規定力を有するものにあらず。既に「ヘルマン」はこの基金學說を攻撃し、次で「ソルントン」は極めて猛烈にこれを難じたれば、「ミル」は千八百六十九年にその議論を形式的には撤回したり。「ブレンターノ」は所謂勞銀基金を數量的に確定せんとする「セニオル」の努力が循環推論を包含せることを指摘し。「ウオーカー」は資本豊富なる國土の賃銀が低くして資本貧弱なる國土のそれが高きこと、労働者は北亞米利加合衆國にありて屢生産販賣の後に賃銀を支拂はるゝことを引證せり。

社會主義的學說の成績は、企業家と賃銀労働者との經濟競争に於ける權力の不平等と、社會階級全般の意義と、機械及び恐慌の影響とを觀察したる點に在り。その根本的特色は悲觀主義的愁訴にして、その目的は現今の國民經濟組織が必らずや差當り民衆を沈淪せしめ、以て革命を惹き起し而して賃銀組織を撤廢せしむべきことを理論的に證明せんとするに存せり。然り而して社會主義は、その久しく共通の科學的武器を有したる論敵に比し、幾分更に抽象的方法とを信じたり。「ラサール」は過去幾世紀の間に生計及び賃銀の幾分増進したることを否認せざらんと欲すれども、現在に於ては賃銀は僅かに生命を維持する以上に騰貴する能はずと斷じ、而して凡そ賃銀の騰貴は直にそれに相當して人口を増加せしむべしと説けり。彼叫びて曰、平均勞銀が一國民の習慣と生命とを維持し生殖を遂ぐるに必要なる程度に制限せらるゝとは鐵則にして如何ともなし難く、現今關係にして變ぜざる限りはこの鐵則は勞銀を支配すと。

社會主義の根本思想が依據する所は、賃銀所得(勞働所得)と無勞働所得とを反對視し、而して漫に凡そ國民に消費せらるゝ財が勞働者より生産せられ、而かもその著大部分が非勞働者より消費せらるゝことを假想するに在りて存せり。地代と資本利子と企業家利潤とは社會主義をして言はしむれば不當に勞働收益より控除せらるゝものなり。千八百〇五年に「チャールスホール」は次の如き言をなせり。曰、勞働日八時間の中、勞働者は一時間を自己の爲めに而して七時間を富豪階級の爲めに勞働すと。「ロバートオーウェン」の友人なる「ウィリアムトムソン」本譯補の第一冊、經濟學史に於て既に説明せり——は勞働者より奪取せられ不當にも地主及び資本家の有に歸する所の勞働結果を過剩價值と名け、彼の説ける思想と言語とは其後「ロドベルトス」、「マルクス」及び「マルクス」派學者の襲用する所となれり。「ホール」及び「トムソン」より近世社會主義者に至るまでの學者は、通じて勞働は財及び價值を創造すてふ暗語を以て絶對的に若しくは主として賃銀勞働者の機械的賃銀勞働に考へ及びたり。凡そ財の創造、生産、勞働の生産力増進に關する論議に當りて、賃銀勞働者と職員と企業家と爾他階級とが因果的及

び數量的に如何なる割合を以てこれに與かれるか、如何なる過去勞働が土地と資本と企業計畫と準備勞働とに投ぜらるゝか——かくの如きは未だ嘗て精細に研究せられざるなり。辛うじて企業家若しくは職員の監理に對し幾分高賃銀を支給すべしとなし、而して總收益及びその價值より資本積集の爲め、國家及び共同團體の監理の爲め、將た自由職業の爲めに若干額を控除すべしと言ふに過ぎず、例へば「マルクス」に於てこれを觀るが如し。「テーネン」の如きは勞働者の欲望とその勞働生産結果の價值とを乗じてその平方根を求め、これを以て賃銀と定むべしとなせども、(欲望年平均を例へば八〇〇マルクとし、生産結果の價值を年額例へば一〇〇〇マルクとせば、この相乗平方根は約九〇〇マルクとなる)かくの如きは所謂生産結果の價值が根本的に生計需要よりも高く見積られ、而してこれを賃銀勞働者に歸因せしめ、企業計畫を立てこれを監理し且つ市場に生産物を輸送するものは悉くこれと因果的に無關係と認むるにあらざれば意味なきものなり。「カウツキ」は千八百八十一年にありて尙ほ下の言をなせり。曰、勞働收益は勞働生産物を生産する勞働者階級の有に歸せしむるを當然となすと。

本冊二〇五の末段に掲げたる「労働収益全額を労働者の有に歸せしむべし」との要求は、「ラサール」に至るまでの社會主義者が、勿論のこと、信じたる結論なりき。

この斷案を下せる學者は、革命的狂躁精神を以て、勞銀鐵則を破壊し、賃銀組織を廢除し、而して欲望若しくは労働時間若しくは労働給付を標準とする社會的分配制を以てこれに代へんと欲したり。而かも、マルクスの如きは尙ほ此の如き主張をば餘りに兒戯に類せりと信じ。殊に革命を實行し、生産の新組織を實施せんと欲し。然れば則ち爾他一切の事項、殊に勞銀の改善の如きは自ら實現せらるべしと信じたり。「マルクス」は勞銀鐵則の破壊將た労働収益全額の收得と言ふが如き主張を悉く嘲笑し去れり。彼は勞銀下落の必然性に關し民衆の沈淪に關して獨特の新學説を立て、この學説は個々の點より觀て舊社會主義者よりも遙かに實際的經驗に徴したるの特色を有したり。然れども他面より之を察せば、一切の財及び價值は賃銀労働者より創造せらるる思想を固執し、この思想を巨細に究明することをなさずして、想像的構想に依り神秘的形式に依りて

これを支持せんと力め、且つこれを極端に誇張せり。

「マルクス」の賃銀學説は、彼自らその見解上に根本的に動搖し、即ち幾分は狂氣的獨斷論者として又幾分は銳利にして眞理に忠なる報告者として記述せる限り、こゝにこれを披瀝すること必らずしも容易ならず、然れども余の信ずる所にして誤らざれば、彼が資本論の第一卷に收むる所の根本思想——民衆に影響を及ぼせるものは獨りこの第一卷なること敢て説明を要せざるが——第二卷及び第三卷にも亦含まれ、而してこれを次の如く攝要することを得べし。曰、労働者は常にたゞその習慣的生計を營めるのみ、賃銀は資本積集、慣習、國民經濟の全行程に應じて時に多少の増減あれども、その増減は言ふに足らざるの額なりと。問題の中心點は一切の價值を以て單に生産過程に於て生じ得るものとなし、而して市民的(資本家的理論家の如くこれを以て流通過程に於て生ずるものと思惟せざるに在り。則ち然りと雖も彼が所謂社會的必然労働即ち換言すれば技術の現狀に相當せる労働は、或は労働に關係せる全體の總労働の意義に解せられ、或は殊に主として執行賃銀労働者の労働のみの意義に解せられ。資本家及び企



業家、地主及び金貨は「トムソン」と同一義に非労働者と稱せられ、所謂過剰価値を不當に自家囊中に收むるものと認めらる。「ホル」の虚構即ち労働者が労働日八時間の中一時間はその賃銀の爲めに残り七時間は資本家の爲めに労働すてふ定説は、「マルクス」に依りて緩和せられ、即ち労働者は六時間にして自己と自己の家族との生計費に相當する価値を生産し、他の六時間(労働日十二時間として)は則ち雇傭主の爲めに価値を創造すてふ假定(所謂過剰価値)を以てこれに代へられたり。この假定が果して事實と一致せるか、何處にこれが實例を徴し得るかは研究せられず。且つ「マルクス」は更に附言し、労働賃銀が労働の価値の如く見ゆれども實は然らずして労働力の價格なりと断定したるに依り、この現象は闡明せられずして即ち曖昧化せられたり。資本主義時代の労働法則として彼が提供したる所は次の如し。曰、掠奪及び農民驅逐に依り、商業欺偽及び殖民地支配に依りて既に資本家と無所有家とを生じたる後、後者即ち労働者は前者即ち資本家の爲めに使役せられざる可らず。労働者は半日即ち六時間にしてその使用する所のもの及び賃銀として收得する所のものを生産す。然るにも拘らず勞

働者は全一日間労働せざる可らず、從てその創造する所の価値は賃銀として支拂はるゝ所に二倍す、此過剰価値換言すれば後の六時間の労働結果は資本家の囊中に收められ、斯の如くして始めて大規模に組織的資本積集を效すなりと。此根本的過程に名けて「マルクス」は或は技術的自然的となし、資本主義生産過程の秘密となし、雇傭主の偶然的利益となし、或は不法と號し壓制と唱へたり。さて技術、結社、大工業の進歩が生産物を増加するに及び、資本家の優勝力に依り、労働日の延長に依り、成年男子労働に代ふるに婦人及び兒童の労働を以てすることに依り、人間労働に代ふるに機械を應用することに依りて、絶對的過剰価値の外に尙ほ相對的過剰価値を生ぜしめ、換言すれば賃銀は資本家の爲めに益減削せられたり。不變的資本換言すれば据付生産手段―据付資本はそれ自體には何等の価値をも創造せず、価値を創造するものは獨り労働を然りとす―は變換的資本換言すれば労働賃銀として支出せらるべき資本を犠牲に供して愈増大し。これが爲めに苟くも技術の進歩に伴て労働者は失職の悲境に陥る。こゝに於て無職業者の豫備軍を生じ、この豫備軍は恐慌の廻期的襲來と共に

に益増加し、而して愈以て貨銀を下落せしめずんばならず。これ資本主義時代の人口法則なり。然れども「マルクス」はこれと同時に人口過剰が或は生活資料との歩調を破るに至るべきことを否認し、加之英蘭人口は労働日を合理的に制限せば恐らく需要(労働力需要)に應ずること能はざるべしと主張せり。それにも拘らず「マルクス」の唱ふる所は次の如し。曰、機械の應用は熟練労働者を驅逐し、不熟練なる賤民をして近世労働者の一般體型たらしむ。されば知識及技巧の退歩は資本主義的生産の流行と相提携し、民衆の一般的沈淪は不可抗の結果として來らざる能はずと。

「マルクス」は其の當時に於ける英蘭織物工業の最も悲惨なる印象と調査とより支配せられ、將來工場法の制定ありて以て英蘭工場労働者を身體上及び道徳上に復活せしめ、労働力の價值規定が歴史的及び道徳的要素を包含するに至るべきことを否定せず。然りと雖も彼は老年に及び即ち千八百六十七年後に及んでも尙ほその本來の過剰價值學説及び民衆沈淪學説を脱すること能はざりき。機械に對する「マルクス」の痛撃が多くの眞理を藏することは既に本譯補の第二冊

〔八〕

十五 〔十五〕に於てこれを批評したり。恐慌の影響は「マルクス」に依りて誇張せられたれども、その労働者階級に對する大壓迫なる疑はなし。特に「マルクス」の狂氣的主張はその過剰價值學説なり。吾人は既に本譯補の第五冊、價值論に於て、過剰價值の不當收得換言すれば商品及び労働給付の一部分に對する不當無支拂が實際上に起り來る事實と其の場合とを論述したり。「マルクス」は爾他一切の場合を看却して、たゞその一つの場合のみに着眼し、これを事實上然らざるにも拘らず(價值を創造するものはたゞ労働力のみと號して)生理學的技術的原因(手工労働力)のみに歸結したり。これ實に證明する所なき主張たるのみならず、又實に價值構成全般の眞原因と労働者の困難せる不幸状態とを全く誤解せるものならずんばならず。商品の價格騰貴してこれが爲めに大利潤を生ずる場合に、これが原因は概して主として労働者にあらずして企業家に在り。而して労働者がその労働力に對し、その時代に相應せる正義の寫象に照して不當貨銀を支給せられ、市場景況に相應せる額に及ばざるものある場合にも、これが原因は單に労働力の過剰供給に存するのみならず、高利關係將た不完全なる制度も亦概し

て等しくこれに與かれり。然れども過剰價值壟斷の原因はその何れなるを問はず慣習及び法律によりて排除せられ従て又制限せられざるにあらず。「マルクス」も亦このことを想像したるや論なし、例へば彼の手工組合法の作用に關する陳述、工場法に關する要求及び労働者階級の政權把持に關する將來希望の如き皆之を證明せり。然れどもこの思想原則は、一つの社會的史觀即ち詳言すれば技術及び物的原因を以て萬能と認め人間それ自身を全く無視せる史觀を構成せんとする彼の僻見の爲めに、反覆擊退せられ曖昧化せられたり。

「カールマルクス」の學說、將た凡そ第十九世紀の四分の一末期に至るまでの舊賃銀論者の主張に係かる學說は、幾分事實觀察に基ける若干の眞理を含蓄せり。通じてこれ部分的事實觀察より不當に若しくは誤りて概括し而して萬世の眞理の如くに主張したるものなり。千八百六十年より千九百年に至るの間、資本主義學說と社會主義學說との爭論を基礎とし、廣汎なる歴史的及び統計的觀察を基礎とし、而して職工組合、工場法及び其他の社會制度の正當なる批評と相俟て、こゝに始めて廣く學者社會に賃銀運動に對し一層妥當なる判斷の發達を觀

たり。而して英蘭に於ける「ソントン」の著述、獨逸に於ける「ブレンターノ」の著述、北米合衆國に於ける「ウォーカー」の著述は即ちこれが先驅たり。さて吾人は今より斯學の現今進歩狀態に準據し賃銀高を規定する原因に關して斷言し得る所を略述せんとす。

**二百十一**

賃銀高及び賃銀運動の原因、労働の供給及び需要。吾人にして舊賃銀學說の偏頗を避け、而かも差當り在來の方法を以て労働市場の供給及び需要より研究せんと欲せば、吾人の出發點は先きに労働關係に關して陳述したる處に歸す。即ち労働關係は單に階級競争にあらず、又單に權力現象にもあらず、法律秩序に依りて愈一定の軌道に制致せられ公共的官吏補任と益相類似せんとするものなりとは吾人の既に主張したる所。従て今賃銀にありても凡そ價值構成一般の現象に於けると等しく、需給の數量關係は一つの規定力たり、労働力の效用及び員數は價值を構成する原因たることを承認せざる可らざらん。則ち然りと雖も吾人は更に次の如く附言せんとす、即ち賃銀現象に在りては商品市場に於けるよりも一層有力に需給關係の背後にそれぞれの社會群ありてその感

情と慣習と社會關係とが大に影響を及ぼせること、これが社會上の地位及び組織、將たその權力の強弱如何は一切の社會制度及び法律秩序を規定すること、而してこの制度及び秩序は此等社會群の云爲行動を規定し、併せて貨銀及び貨銀運動にも影響を及ぼし、否屢貨銀額を支配せることは是れなり。

貨銀額は即ち社會階級の權力關係を表示せるものなり。國民意識に傳承固定せられ、生計上に表示せられ、而してその變化すること眞に徐々にして且つ困難なる所の階級別現象は、總じて所得分配に作用して貨銀の總高及び諸等級勞働者群の等級別貨銀にも亦影響す。貨銀、生計及び階級別は一面よりこれを觀れば經濟的社會的及び政治的組織の結果、分業及び所有分配の結果なり、一言にしてこれを掩へば確實に捕捉し得べき實際的原因の結果たり。而かも他面よりこれを觀察すればそれと等く又群集心理學的要素の結果たり。知識及び能力の利用、宗教的理想及び其他の理想の支配、將た又これに基ける階級別慣習及び法律制度の變更は、場合に依りては上に掲げたる實際的原因の色彩と力と効果とに大變動を及ぼし、場合に依りては需要及び供給の結果を數量上には殆ん

ど全く無効ならしめ、若しくは結果を制限せずんばならず。從來貨銀を單に市場の數量關係のみより説明せんとしたる學說と雖も、亦生計及び生計變化の可能をその老察の中心點とし、從て慣習的道德的及び制度的原因の影響を承認せり。吾人は今この點より研究を進めんとす。

(イ)一に貨銀高、二に在來生活欲望の總體としての勞働者の生計、三に經濟的技術的給付能力はそれ自體に獨立せる三現象なれども、極めて密接に聯關し而して常に均勢を持するものなり、吾人は差當り此三現象の關係を闡明せんとす。勞働者階級は、若しその在來欲望を満足し得べき貨銀を得るにあらずんば、能く久きに亘りて生存し、家族を建設し、同數の兒孫を教育するの力なし。よし自家所有、貧民貯金、共有地より收得する所を以て、貨銀に依らずして生活せる除外例屢これあらんとも。將た又貨銀が一定の關係の下に欲望の急劇に増進することなくして騰貴することあり、これと反對に欲望の減退なくして貨銀の下落すること屢これあれども。大體に於て勞働者は其長期間を觀察すればその貨銀に相當する生活をなし、習慣的にその貨銀を以て満足し得べき欲望を發

達せり。この在來的習慣的生計は即ち勞働の生産費を表示す。

四七六

さて貨銀高と生計との關係は大體に於て一致すること確實なれども、個々の場合に就て言へば種々に攪亂せらるゝが故に、何時如何なる場合に貨銀高が生計に作用し、貨銀の騰貴が衣食住を改善せしむべきか若しくは否か、又貨銀の下落が一時的若しくは持續的に生計を引き下げしむべきかの問題を生ず。この問題は或は貨銀の騰貴若しくは下落が寧ろ生計に影響し、或は生計の變化が寧ろ貨銀に影響するに幾何期間を要するかを眼目となす。而して文明の程度と國民進化の狀態とに準じてこの過程は一樣にあらざれども、主として次の如き差別を立つることを得べし。

野蠻にして懶惰なる勞働者階級、并に營養缺乏し體力萎微、概して頽廢せる勞働者階級は、たとへ貨銀騰貴するも直に以て之を生計の改善に利用するに至らず。これ等の勞働者階級は多く得れば從て怠り、屢一週間六日勞働せる者は僅かに四日若しくは三日の外勞働せざるに至る。彼等の眼界は遠きに亘らず、從て生活を高尚にし、兒童に良教育を施し、住居を改善せんが如きを思はず。

貨銀騰貴すれば恐らく人口急劇に繁殖し、概して無思慮にその日暮しの生活をなす。反之精神上道德上及び技術上に高級發展をなせる勞働者群は、既に中流階級の欲望然り上流階級の欲望をも少なくとも望見し、從て之を羨望し、その貨銀騰貴するや直に生計の上進を計り、彼等の神經と道德寫家と慣習及び生活制度とが能く新たなるもの優れたるものを在來欲望に混和せしめ得る限りに貨銀を利用せんとす。

何人に限らず生計の引き下げらるゝことに對しては皆多少の抵抗をなせども、その抵抗程度は同一にあらず。文明幼稚なるものはこの抵抗力に乏しく、殊にその在來の社會關係より分離して孤獨生活をなし、全く新たなる關係に入れる場合に於て然りとす。古風の農民、手工親方、舊鐵夫、并に現今の組織をなせる勞働者、全中流階級、富豪階級は、苟くも生計の惡變に對して有力に抵抗すれども、組織をなさざる家内勞働者、田舎より都市に引き移れる舊工場勞働者、自然物經濟より貨幣經濟に入れる日雇人は、概してその生計を固執するの能力なし。言ふまでもなく彼等は全く新たなる生活關係に入り、この新生活關係に

四七七

ありては、彼等の血縁者將た在來の隣人は彼等が如何に茅屋に居住し如何に困乏生活をなせるかに就き毫も知る所なし。然るに勞働者に至るまで生活の惡變に抵抗し、社會的名譽感情は生計惡變を忍ぶ能はず、遂には生活を引き下げられんよりは寧ろ死するに如かずとまで感ぜしむるに至れるは、一つの社會的大進歩ならずんばならず。

技術的經濟的給付能力は、言ふまでもなく身心上の稟賦と教育と生活運命との區々たることに準じて個々人に甚しく相異せり。されども凡そ如何なる勞働者階級と雖も平均して、その人種特質と賃銀高と生計とに相當せる給付能力を備へざるはなし。賃銀及び生計は或る程度の營養と從て力とを意義し、而して或る種の學校教育及び技術教育を意義せり。高賃銀を取り高尚なる生計を營める勞働者を有する國民は、同時に最も給付能力に富みたる勞働者を有するの國民たり。されば殊に高賃銀と生活の上進とは苟くも賢明なる經濟政策及び社會政策の一任務たらざる可らず。

さて吾人が賃銀高及びその運動を研究せんとする出發點は、一に千五百年乃

至千八百五十年の間に成立したる勞働者階級に屬する個々勞働者の在來賃銀及び生計なり、二にこれより發達せる一定賃銀額なり、而して三に勞働者階級に對する需要供給の作用なり。これに關して吾人は次の如く言ふことを得べし。曰、貧窮小農民、過多の隷屬民、親方となること能はざりし手工職人の在來賃銀及び生計は、差當り狹義賃銀勞働者の生計及び賃銀高を規定し。而して主としてこれを規定したるものは、在來關係を脱し、自然物經濟の慣習と習慣とを捨て、而して貨幣經濟の新關係、都市市場、新經營形式に適合せざるを得ざりし勞働者是なりと。是れを以てこれを觀るに、新たに賃銀勞働者階級の發達ありて、こゝに社會階級別は曩時より一層較著なる懸隔を生じたること、新たに成立したる貨幣賃銀勞働者階級の生計を維持すべき賃銀は當初甚だ低廉なりしこと若しくは僅かに生命を繋ぐに過ぎざりしことは既に明白なり。

さて吾人は轉じて勞働力の供給及び需要を研究せんとす。

(ロ)勞働力の供給。賃銀勞働に従事せんとする勞働力の供給は、第十六世紀より第十九世紀に至るまで、西歐諸國に於て著大なりき、然り屢過大なりき。こ

れその國土が人口既に稠密なる舊文明國にして、耕地は多くそれぞれの占有に歸し、而して近世農業法の施行せらるゝまで周約的農業は殆んど不可能なりしが爲めなり、當時の人口防壓政策はよし人口の増加率を減じたれども、未だ全く増加を禁止するに至らず。然り而して千七百八十九年乃至千八百六十年の間、この防壓政策は主として撤廢せられ、技術及び經濟學説は宛然最も有望なる樂觀主義を宣傳するに及びて、人口増加は未曾有の急潮を呈したり。されば勞働力の供給は、必ずや舊文明國土に於ては容易に勞働機會に超加せずんばならず。而して歐羅巴人の殖民地に在りてはこれと反對に土地が無様に餘裕ありて勞働力には則ち缺乏せるの現象を呈せり。賃銀が舊文明國土に於ては大體に觀察して低廉に、殖民地に在りては高率を示せる所以のものこゝに存せり。

西歐諸國、佛蘭西、英蘭、シウエーデン、ノルウェーデン、幾分は其他の中央歐羅巴領域に於ても亦、最近二十五年乃至三十年以來、人口増加率は著しく減退せり。これには一時的因原の外に一般的及び持續的原因なくんばあらざるべし。一般的因原の存する限りは、恐らく勞働供給の引き續きて制限せられたること、

貧民階級の結婚習慣及び男女關係が著しく中流階級のそれに接近したること(これ實に賃銀關係を改善し得べき唯一の條件なるか)を看却す可らざらん。而かも獨逸に對しても亦この人口關係が果して事實ならんか而して如何なる程度まで事實ならんか、將た然らざるかは問題なり。若し事實とすれば東部にスライヴの移住し來ることは愈以て増加すべきなり。

全國土の人口運動を觀察するは概して困難なり。凡そ何れの國土にもその郡區及び州縣には人口稠密なると稀少なるとあり。或は人口停滞し或は急劇に増加し而して國內に大移住をなし、或は來住あり或は往住あり。總じてこれ等の原因は、時期及び地域より觀て勞働力の供給を著しく相異せしめ、而して幾分は又極めて不定的ならしむ。需要如何に依りて人口稀少の州縣は一時勞働者の過剩供給を惹き起すことあるべし。需給關係の全く停滞せるものは何處にてもこれが事例を發見すること能はず。而して不定的人口運動及び移住をして如何に需要の増減と一致せしむべきかは一般に重要な問題たり。然り而してこの大運動に對し、賃銀の高低は人口調節の諸原因の中その一原因なれども、アダ

ムスミスが貨銀の騰貴及び下落は常に人口を正當に調節すと主張して以て想像したるが如くに決して唯一の決定的原因ならざることを忘る可らず。人口運動を規定する所の第二次的原因の中、人口政策、土着政策、移住政策及び殖民政策に就ては吾人既にこれを論述したり。總じてその目標とする所は、勞働力の需要及び供給を常に正當に調節せざる可らざることに在り。

吾人は上來人口を總體として取扱へり。こゝに取扱はんとする貨銀機會を求むるものは單に總人口の一部分のみ、而して土地財産、資産全般の分配如何に従ひ、總社會階級組織、中流階級の存續如何に應じて、これが數は實に一樣にあらざるなり。加之更に全く無所有にして從て勞働力供給に際し如何なる犠牲を拂ても就職せざる可らざるが如き急地に沈淪せるものは總人口の一部分の中の又一部分に過ぎず。小農民及び小手工の居たる地方、例へば南西部獨逸の如きに於ては、貨銀勞働者は比較的少數なり。この少數貨銀勞働者も勞働市場に壓迫せらるゝこと多からざるなり。

勞働の供給は幾分それぞれの地方に依り幾分それぞれの職業に従ひ、多少獨

立せる一系列の現象なり。現今の移住の自由と職業の自由とは實に住地及び職業の轉換を容易ならしめられたれども、今日と雖も移住及び職業變更將た一職業及び一地方に於ける高貨銀は、未だ以て容易に且つ迅速に均勢を效さしむるまでに自由自在にあらず。夫れ種々の職業及び工業に於て、勞働力供給は當該業務の引力とこれに對する人々の好惡とに依りて規定せられ、その職業を執らんとするものゝ身心の特質、教育費、將た準備機會に俟てる就職の難易に依りて調節せらる。而して一職業にしてこれに習熟すること愈容易なるに従ひ、これに對する供給競争は益劇烈に、老年勞働者亦これに轉業すること益容易なるべし。この結果他に好地位を克ち得ること能はざるもの、何等専門の素養なきものは、悉く常に最も低貨銀にして最も好ましからざる勞働に當らざるを得ず。

供給の數を最も鮮明に表示するものは一時全く就職の路なきもの即ち失職者の數なり。失職に對する恐怖は苟くも勞働者を戰慄せしめ彼等をして弱者たらしむる所以の魔力なり。失職の一時的増加は、最近五十年來北亞米利加合衆國及び英國に於て最も劇烈に、西歐の大都市及び工場地方にも亦これなきにあら



四八四

ず。この失職現象は取引隆昌時代には減退すれども到底全く消滅するに至らず。上に掲げたる諸國土にありては勞働者の二分の一プロツェント、然り一プロツェントは恐らく常に職業に就くこと能はず。頻繁なる轉業、居住地變更、疾病、季節勞働これが條件たり。而して失職者の數が更にこれより増加すれば、賃銀は爲めに下落す。これに關し吾人の引證し得べき數字は必ずしも確實ならず。この領域に於ける統計は今日尙ほ極めて不完全なる状態に在り。或は獨逸に於ける失職者を、千八百九十五年六月十四日調査にて一八五プロツェント、千八百九十五年十二月二日調査にて四七八プロツェントと計上せるあり。北亞米利加に關するものは一時三〇プロツェント、英國に對しては八十年代に七一・一五プロツェントと統計せらる。ワードに徴すれば英國に於ける失職者數は、千八百六十年乃至千八百九十一年の間、若干工場部門に在りて〇・九プロツェント(千八百七十二年)及び四七・八プロツェント(千八百六十七年乃至千八百八十六年)の間に動搖せり。これが原因に關しては吾人こゝに深く立ち入ること能はざるを遺憾とす。たゞ失職者の數が將來増加すべきことだけはこれを言ひ得べし。蓋し勞働者の數に

四八五

對し既に勞働地位が餘りに少なく、若しくは供給と需要と一致せざればなり。需給の不一致を救済する方法としては、不充分にして而かも屢不純なる私的入口所よりは寧ろ公的勞働案内設備に依るを優れりとすべし。一面には雇傭者及び勞働者の合同、他面には宗教諸派の合同及び自治體の官廳ありて既にこの事に干與し、前者は一方的階級利害を中心とし、後者は不偏不黨の總利害を中心として勞働案内事項を組織せんとす。この種組織の發展は現に漸くその緒に着きたるに過ぎたれども、互に勞働案内機關を爭奪せんとする社會階級競争の劇烈なるに徴し、今日既に勞働案内機關を支配せることがやがて有力なる權力手段を掌握する所以にして、その結果は賃銀及び勞働條件一般の上に影響すべきこと―これ吾人の觀察する所なり。現に勞働力供給の方法と緊急状態と並に供給數とが如何に重要問題たるかに顧みれば、則ち吾人はこのことの偶然ならざるを理解するに難からず。共同團體若しくは國家の監督の下に全國に亘りて集中組織せられたる不偏不黨の勞働案内は、以て將來常に失職現象の大部分を排除し得べきのみならず、又全勞働關係及び賃銀高の上にも或る程度まで好影

響を及ぼし得べきと疑なし。(尙ほこれに就ては本譯補の第七冊—次冊 **二百**

**二十四** に参照する所あれ)。

勞働案内の一部分は現に既に職工組合の干與する所に屬せり。職工組合の組織、普及及び意義に關しては吾人こゝに立ち入ること能はず。(次冊 **二百二十**と比較せよ)。されども勞働市場の勞働供給方法が、一般的勞働案内に依れるよりは寧ろ職工組合に依りて變化を來たせるの一事はこゝに注意せざる可らず。英蘭に於て職工組合に屬する勞働者の數は今日にして殆んど二百萬人に上り。これ等勞働者は一定賃銀を得るにあらざれば勞働せず。失職者は則ち組合に依て救助せらる。若し失職者の數が増加すれば一部分は國外に送り出さる。これに依り且つは賃銀及び勞働條件の爲めの組織的競争に依りて、常に組合勞働者に對してのみならず又英蘭の全勞働者階級に對し有利なる効果を收むることを得たり。この効果は勞働者の數に基せるものにあらずして實にその組織及び供給方法と而してこれが結果たる權力推移とに俟てるものなりとす。

上來の陳述は勞働供給の作用が組織及び制度に依りて如何に影響せらるゝか

に就き、近世時代に起れる最も重要な場合を引證したるものなるが、この外に古今を通じて、道德的心證、慣習及び法律、市場秩序及び競争統制、經濟的副業及び其他の事情が、勞働供給の方法及び必要に對し著大影響を及ぼせる幾多の場合ありて存せり。たゞ憾らくは餘白なきが爲めこゝにこれ等の場合を深く説明すること能はず。

(一)賃銀勞働の需要は分れて二類となり。その第一類、奴僕及び隸屬者、下級官吏及び兵士に對する需要は、直接に自家の目的の爲めに勞働を要する所の人及び結社より發し。極めて必要な需要にして且つ比較的に一樣なれども、第二類の需要に比すれば僅少數なり。例へば獨逸に於て千八百九十五年、第二類即ち企業に勞働せる千二百八十萬人の賃銀勞働者に對して第一類の勞働者は約そ二三百萬人を出でず。隸屬者の數は富豪貴族と幼稚なる多數民衆階級と而して幼稚文明状態との時代及び國土に多數にして文明高尚なる發展を遂げ且つ分業發達すれば比較的減退す。然れどもその絶對數は増加し、而して更に下級官吏、兵士及びそれ等に類似せる他位の勞働者は愈増加す。

第二類の需要は企業より發し、企業は商品及び勞働給付を市場に販賣せんが爲めにその取引業に賃銀勞働を要す。この第二類の需要は第一類のそれより遙かに重要なもの、第一類の需要の如く不變的ならず緊切ならず、市場、取引生活、販路、全消費状態に従て増減一律にあらざるなり。吾人はその間に販路全體を規定する原因と殊に勞働需要を支配する原因とを差別せんとす。

需要全般に影響を及ぼす所の一切原因が、多少に拘らず勞働需要をも規定することは明白なり。蓋し生産要素の中にて勞働は時に輕重の別こそあれ常に不可缺の意義を有すればなり。吾人は次の如く言ふも恐らく誤謬に陥らざるべし。曰、商品及び勞働給付に對する需要は凡そ何れの國土たるを問はず、(イ)その貧富状態、消費力、所得分配に依り一言以てこれを掩へば先きに吾人が需要論の節に論議したる一切の要素より規定せられ、(ロ)輸出入及び輸出入を支配せる一切原因―例へば商業政策及び殖民政策、航海の發達状態、國民の商業精神より規定せらる。更に吾人は主張するを得べし。曰、既に「アダムスミス」の注意せるが如く、勞働需要を決定するの力は國民經濟全般の盛運若しくは停滯若

しくは疲弊これなりと。この故に或はこれに附言して次の如く説けるものあり。曰、國民經濟全般の進運に最も痛切の利害を有せるもの勞働者階級の如きはあらず。凡そ爾他の階級―殊に企業家階級は概して國民經濟の弛張と最も緊切の關係を有すれども、寧ろ豫備資本を蓄へ、寧ろ停滯及び疲弊の難に陥ること勞働者の如く甚しからず。されば驗知に富みたる向上的勞働者が國民經濟の隆替を最も熱心に討究するも亦自然の理數なりと。

更に語を換へて言へば、賃銀勞働に對する需要の強弱は畢竟その當時に於ける國民經濟全般及びその個々部門の生産力に歸す。然らばこの生産力とは何を意義せりや、吾人はこれに答へて次の如く言ふことを得べし。曰、(イ)豊富にして且つ多量の自然力と、(ロ)訓練あり組織あり聰明にして技術に秀でたる勞働者と―これ吾人が特に生産力ある國民經濟状態將た國民經濟部門と稱揚するもの前提たりと。この條件を備ふれば、その國民經濟上の手段は豊富に、生産及び消費は増大し、從て勞働需要は大にして且つ増進す。この故に爾他一切の條件を同一と假定すれば、土地の肥沃なる處はその確なる處よりも農業上の賃

銀高く、この故に數百年來技術及び經營形式の停滯せる國土にありてはその然らざるものに比し貨銀低廉なり。この故に勞働者の給付能力の増進に伴ひ概して取引生活の隆昌及び總需要増進の結果として貨銀は益、騰貴す。天産物豊富なにも拘らずその供用が増進人口に對して愈、益、貧寒となる場合には、或る見地より言へば生産力の減退と稱するも亦不可なかるべし。所謂收益遞減の場合これなり。かくの如きは技術上及び組織上并に精神上及び道德上の進歩が著大にして能くこの生産力の障害に打ち勝ちて餘あるにあらずんば、これを防禦すること能はず。ト、イ、ン、派及び塊地利の限界效用學者が主張する用語に換言すれば次の如し。曰、自然的原因若しくは技術的原因より起る所の生産力減退を問題とする限りは、最後に雇傭せられたる勞働者が生ずる過剰生産物は價值を決定し、而してこれに基ける價格騰貴は需要を制限し、從て貨銀を下落せしむるの力あり。この故に地代非常に騰貴し、大企業家の獨占利潤増大すれば則ち貨銀は壓迫せらるゝの危険ありと。

遮莫、國民經濟の隆替如何に拘らず、生産力の強弱に關せず、苟くも商品及

び給付に對する需要は寸時と雖も全然不變なること能はず。年の豊凶に従ひ、市況の順逆に應じて動搖し、而して停滯國土に於けるよりは隆興國土に於て一層甚しきものあり。蓋し進歩の實現は模索的前進然り屢、急進的運動の間に始めて期し得なければなり。これが貨銀に及ぼす反動はその日暮しの貧困勞働者にとりては極めて痛切なるものあり。尙ほ吾人は後段これに論究する所あるべし。上來の陳述に於て吾人は商品需要の増減が貨銀働勞に對する需要の増減を意義せるものと假定したるが、これ或る程度までは眞理なれども時と處とに關係なく一般に眞理と認む可らざることをこゝに注意すべき必要あり。夫れ貨銀働勞は幾多生産要素中の一要素なり、貨銀働勞は幾分資本に依り機械に依りて取て代はらる。されば吾人は上來陳述したる過程の範圍内に於て、爾他生産要素の需要に對し何が故に貨銀働勞需要が比較的に緊切なるかの原因を討尋せざる可らず。若しこの爾他生産要素を一括しこれを資本の概念にて表示すとせば、則ちその時々比較的強く、需要せらるゝものは資本の生産物なるか將た勞働の生産物なるか、諸般生産要素の中にて比較的多く増加するものは資本なるか將

た勞働なるかは思ふに自ら生ずる問題なるべし。この需要の比較的強弱并に隨意に處理し得べき資本及び勞働の量は即ち以て賃銀勞働の需要と價值とを決定せしむるの準據たり。然れどもかくの如き抽象的圖式は未だ賃銀勞働の需要問題を十分に説明するに足らず。これと等しく技術上より言へば、勞働若しくは資本の何れをも同一目的に供用し得る場合には、一般にその何れを採るかは利率若しくは賃銀率の高低に依て決せらるる主張も、それ自體に誤なきも賃銀勞働の需要問題に對する説明としては未だ盡せりと言ふべからず。この後なる命題の説明する所は、或る國土に於ては賃銀低廉なるが故に例へば園藝及び野菜業の發達あり、他の國土にありては利率低廉なるが故に例へば牧畜及び精巧なる織物工業の發達あることを説明するのみ。

明晰を期せんが爲めには、國民經濟の個々部門に於て資本及び勞働の需要が如何に推移せるか、又この過程が國民生産の總體に對し如何なる状態をなせるかに就き、恐らく長期間に亘りて詳密に研究し得ざる可らず。而して恐らく同時に經營形式の變化に伴ひ、曩時の農民、手工、小商人の勞働が幾分漸次に賃

幣賃銀勞働に變じ從て又如何に市場需要にも應ずるかを討尋せざる可らず。而して國民經濟の各部門と全國民生産とに對し苟くも勞働供給及び資本供給を知悉すべき必要あらん。かくの如き研究は今日尙ほ未だ恐らく完全ならんことを期す可らず。然れども恐らく吾人は次の如く陳述するを得べし。

大機械装置を以てする市場工業の技術上及び經營上に最も完全せる生産にありては、最近百年來、勞働力は愈節減せられ、資本は益多く投ぜられたり。例へば北亞米利加之羊毛工業にこれを觀るに、現に賃銀は生産品販賣價の一六プロセントのみ、その木綿工業に於けるものと雖も二三プロセントに過ぎず。然るにこの割合は五十年前及び百年前に顧みれば恐らく現状に三倍し且つはそれ以上を示せり。爾他の工業部門に於ては關係これと異なり、即ち例へばシノレジアの石炭工業にありては賃銀は現に尙ほ四六—五〇プロセントをなせるが如し。さてこの割合が一切の生産部門を通じて如何に變化したるか、更に進んでは所得及び國民需要の幾割が例へば著しく勞働を驅逐し資本を以てこれに代へたる織物商品に該當するか、將たその然らざる商品及び給付、例へば投資額しかく

著大ならざる(從て勞働需要比較的に多き)建築業、農業、多くの食料品工業にこの幾割が該當するかは、自ら起り來る問題ならん。然り而してこれと相並びて交通業及び旅館業の爲めに、教師及び官吏等の職業の爲めに勞働需要の益増加せんとするあり。されば吾人は大に發達せる諸工業部門の勞働需要減退が、國民經濟上に前進せる國家に於ては、勞働需要の總増加に依りて均勢せらるべきことを假定し得ざるにあらず。これに關して余は既に本譯補の第二冊 **八十五** に掲げたるこの總需要を證明せる統計を想ひ起さずんばあらず。企業に勞働せる賃銀勞働者の數は、プロイセンに於て千八百十六年に百三十萬人、千八百六十七年に三百九十萬人、獨逸に於て千八百八十二年に千〇七十萬人、千八百九十五年に千二百八十萬人と註せられ。聯合英王國に關する「ギン」の調査に依れば、賃銀勞働者の數は千八百三十六年に九百萬人、總所得は一億七千百萬磅、年一人宛所得は一九磅、千八百八十六年に千三百二十萬人、五億五千磅、年一人宛所得は四一七五磅となり。

國民總所得に對し諸時代及び諸國土に於て賃銀は幾何割合をなせるかを計算

し得ば、これより逆に推論するも亦、最近二百年來引き續きて資本投下の増加したるが爲めに、賃銀勞働需要が絶對的に若しくは比較的如何に制限せられたるかを斷定し得べし。然れどもこれに關しては寧ろ所得分配論に當りて究明するを上乘となさん。

勞働需給の數量に關する上來の論述に併せて、こゝに吾人は權力關係に應じて相異すべき需給現象の強度に關して尙ほ一言する所あるべし。

これを大體に概観すれば、勞働力供給者に比しその需要者は、權力及び所有に於て勝り、識見及び自覺に富めるもの、市況に通曉して能く好機の到來を待つことを得るもの、而して必らずしも勞働者の如く契約締結を緊切に感ぜざるものなることは何等の疑ある能はず。この結果は、爾他原因にして作用せざる限り、賃銀はやゝもすれば單に數量關係より期待せらるべき水準以下に壓迫せらる。賃銀は既に業に騰貴すべくして依然として低賃銀なるあり。その騰貴する場合には、屢々緩漫にして且つ不充分なり。歴史上長時期間に亘れる賃銀下落の現象はこの種の原因系列を考量するにあらずんば説明す可らざるなり。

然れども需要者と供給者とのこの關係が如何なる場合にも儼存せりと信ずるは恐らく全く誤謬なるべし。否この關係は種々の事情に依りて制限せられ、然り逆轉することなきにあらず。殖民地に於ては勞働者の缺乏甚しく、爲めに勞働者は比較的に勞働契約を緊切に感ぜざることあり。諸地域及び諸地方にありて小農民經營及び小手工經營の流行せる限り、賃銀勞働者一殊に良勞働者は屢甚しく缺乏を告げ、彼等はさらぬだに小企業家に匹敵すべき社會的地位を占め、權力に於てこれに下らず若しくはこれを凌駕し、然り經營監理者を虐待し、或る場合にはこれが利益を壟斷することなきにあらず。凡そ好況時期には殆んど一般に勞働者の權力は増大して企業家の權力は則ち沈衰す。勞働者が組織堅固に企業家は則ち然らざる場合に於ては、凡そ上陳の企業家の特長は爲めに相殺せられずんばあらず。勞働者が技術上經濟上の教育を昂進し、所有を増加し、政治上及び職業上の組織を整備するは、則ち以て企業家の優勝力を大部分相殺すべき最も重要な手段たり。然り而して近世の巨大トラスト及び企業家同盟が組織を備ふる勞働者をも壓倒し、而して富豪階級の優勝力を復興する所以なる

こともとより言ふを須いず。これに就ては吾人次節に論述する所あるべし。國家權力及び經濟制度は少なくとも、企業家若くは勞働者が餘りに強大にして不當と感ぜらるゝまでに權力を濫用するに及べば、幾分これを抑止せずんばあらず。

## 二百十二

賃銀高及び賃銀運動の原因、總結論。勞働力の需給に關する論議が吾人に披瀝する所は、歷史上地理學上及び職業上に高低種々の賃銀將た又増減雜多の賃銀運動の可能なること是なり。而して今吾人の重要とする所は、歴史的且つ實際的に最も重要な結果をこれより抽象すること、主として最近百年間文明諸國に於ける大賃銀運動の根本的原因を比論することに在りて存せり。これが爲めには勞働の需給關係と全國民經濟及びこれが組織の發展とを比較することを必要とすべし。この國民經濟組織は畢竟するに諸ろ經濟的原因―從て自然物經濟及貨幣經濟、技術及び分業の進歩狀態、交通形式及び經營形式、人口の多少に據ること言ふまでもなけれど。此等原因の個々は宗教上及び道德上の觀念に依り、その當時の習慣及び法律に依りて秩序せられずんばあらず。

而して國民經濟組織の發展行程は、これ等秤量す可らざる精神力に依りて苟くも一々規定せられ。供給及び需要の多寡そのものも亦これが爲めに變化せられ若くはその作用上に變動を蒙らずんばあらざるなり。

茲に説明せられざる可らざる主要問題は分れて二つとなる。その一は貨銀は何が故に始め千五百年乃至千六百五十年の間に下落し、而して千七百五十年乃至千八百五十年の間に更に又下落せるか。その二は貨銀が何が故に千八百五十年乃至千九百年の間に騰貴せるか是れなり。これに關し國民經濟組織及び總國民制度の大變動を參視することなくしてこれを説明せんと欲するものは未だこれあらざるべし。抑西歐羅巴にありて千四百年乃至千六百年の間は人口増進の時代にして、農民の地位は惡變し、中世的自然物經濟的封建的の制度、舊都市經濟、舊手工組合は既に業に頽廢し、新制度は取て之に代らんと欲し、貨幣經濟は急潮に發展し、資本所有、商業の意義は漸く以て重大となれり。かくて貨幣貨銀労働者の階級は第十六世紀の間に徐々に發達し、第十八世紀及び第十九世紀の間に更に急劇に増加せり。彼等の地位を以て從來労働者のそれに比するに

壓迫せられたる農民階級、手工組合の親方及び職人(其最も貧困なる者より所謂近世労働者階級の發達あり)のそれに及ばず。蓋し近世労働者は組織を缺き且つ舊結合に依據せず、新貨幣經濟に直に適應すること能はざりしを以てなり。これが應急手段として貧民制度は無きに勝れども、彼等の祖先が共有地及び共同團體生活に依り、領地組織及びその救護に依り、手工組合及び家内工業規定に依りて安固なることを得たりしと比すべくもあらず。千七百五十年乃至千八百五十年間は第十六世紀に於けるよりも更に憐むべき状態を呈せり。今や英蘭、佛蘭西、和蘭、獨逸には未曾有の人口増加あり。技術、交通、經營の新形式は施行せられ、貨幣經濟及び信用經濟は優勢に、經濟生活の舊形式は都市に於ても田舎に於ても全く撤廢せられたり。新たに認められたる經濟的自由を基礎として、經濟競争は頓に劇烈を加へ、千八百年より以前の時代に顧みればかくの如きは未だ夢想も及ばざりき。貨幣貨銀労働者階級の劇増は實にこの競争劇烈の時代に在り。此等労働者は、その慣習、觀念、法律寫象に於て、尙ほ全く舊時代の自然物經濟、都市組織及び組合組織、家長制的拘束、社會的服従及び隸



屬の域を脱せず。而して今や彼等は無統制の營利競争と傍若無人の經濟競争とが狂亂せる冷酷時代に處せざる可らざる運命に陥れり。個々労働者は、その故郷、その家族、その共同團體將た自然物經濟の拘束を脱して都市に流浪し。その嘗て享受したりしあらゆる保護と救助とは又得べからず。有形無形に何等の依頼すべき所なく、孤獨たゞ自己の力に訴ふるの外なくして、以て損益打算に鋭く忽ち巨萬の富を成す所の雇傭主と對立す。かゝる状態にして労働者の貨銀及び生計は能く下落せざるを得べきか。

然れども貨幣經濟が普及し、貧民制度の改善あり、國家が新労働組織の最も甚しき濫用を抑壓し、労働者も亦一階級としての自覺を發達しその組織を發達するに應じて、貨銀は騰貴することを得たり、これに加ふに市況順潮なる場合には愈然りとす。即ち千八百五十年乃至千九百年の貨銀騰貴はかくの如くして可能なりき。

さて吾人は貨銀事情のこの大體の輪廓に更に二三の明確なる劃線を表示せんとし。先づ過去及現在に於ける貨銀停滯と貨銀運動とに關して一言する所あら

んとす。蓋しこれ一つの最も重要な點にして、又労働關係が人間それ自身と制度との相異に應じ種々雜多の形體をとり得ることを證明するものなり。

(イ)貨銀は常に現在の生計を據として同一水準を持せんとするの傾向あり。この傾向は嘗て極めて顯著に、現在と雖も尙ほ多くの場合に而かも長期に亘りてこれを認むることを得。貨銀は一般に、供給と需要と(労働力の)の數量、その緊切の程度、その組織及び權力が同一不變なるか、若しくは同一率を以て變動する場合には、大體に於て同一不變なるべし。

かゝる状態なれば労働者の生計と企業家の労働費用とは同一不變にして、貨銀はあらゆる相場及び生産關係に、あらゆる相場及び生産關係は貨銀に適合するが故に、貨銀の不變傾向は爲めに確保せらる。これ差當り労働者も企業家も或る意味に於て必らずや變化なからんとを希望する均勢状態なり。在來の貨銀はやゝもすればそれ自體に企業家及び労働者より妥當なるもの然り正當なるものと認めらる。實に一切相場變動の原因と理法とが尙ほ未だ正當に理解せられざる限りは、在來貨銀即ち名目貨銀—その實際貨銀との差別は尙ほ未だ理解せ

られずをそのままに維持することこれ即ち正常なる社會政策なりと信ぜらる。然れども久しきに亘りて全く貨銀を不變ならしめんことは到底不可能事たり。小動搖を輕減し、一時これを禁止することは即ち能はざるにあらざるべし。然れども著大なる原因に基き、供給及び需要將た全國國民經濟及びこれが組織の大變動に基ける永久的大動搖に至りては如何ともすること能はざるなり。

舊時代を通じ、然り幾分千七百年に至り加之千八百年に至るまで、凡そ貨銀運動は抑制せられたり。既に自然物經濟はその一定不變の給與を以て、貨銀の大部分に對し確定率を定め、この貨銀率は屢數百年來動搖せざりき。農業經營の全拘束關係、手工組合組織及び家内工業組織の定貨銀、農民秩序及び奴僕秩序は、供給需要關係の自然運動を禁止せり。慣習及び公正の觀念は影響して、不景氣時代は勞働解雇を防ぎ、雇傭者も亦勞働者が好景氣時代に至るも高率貨銀を要求せざるべきことを期待せり。既に吾人の觀察したるが如く、凡そ此の如き事情は第十六世紀に於ける實際貨銀の下落將たそれ以前に於けるその一時的騰貴を妨げざりしや言を須たず。されどもこの實際貨銀の下落將た騰貴は常

に一定限度内に止まり、而して屢名目貨銀の不變なるが爲めにその真相を覆はれたり。純貨幣貨銀働勞者階級の發達は實に當時に始まり。その多くは依然として舊働勞組織に依りて保護せられ、然らずんば工業の新隆興の爲めに寧ろ好遇せられたり。然るにその後、千七百五十年乃至千八百五十年の間、舊保護秩序が全然撤去せられ、經濟力の絶對的自由活動を謳歌せる學說が實際界に施行せらるゝに及んで、働勞者階級は概して悲境に陥れり。法律、經濟學說、及び經濟競争の壓迫の爲めに愈々酷薄を加へたる純取引的働勞者待遇は、嘗て雇傭主と働勞者との間に存したりし人格的家長制的關係を廢除し。兩群(雇傭主及び働勞者)は今や益相乖離し、加之幾分相敵視せる階級として對立するに至れり。無制限にして且つ傍若無人なる經濟競争の行はれたる場合には、企業家は多數働勞者に對して冷酷に貨銀を打算し、なるべく低廉働勞力、兒童働勞、婦人働勞を使用し、能ふべくんば自由に解雇せんとせり。第十九世紀の間に貨銀競争は一上一下し、愈以て劇烈となり悲惨となれり。働勞者はこゝに始めて、その自由を解雇せられざるを期し難き境遇の如何に悲惨なるかを經驗し、何時乞丐に

陥らんとも保し難かりき。

景況の一弛一張、恐慌、將た近世國民經濟の突進的發展が、貨銀に對し如何に不利なる結果を齎らすかに就ては、吾人先きに屢これに關説せり。これが爲めに如何に迅速に且つ突進的に需要が變動を蒙り、失職が増加し若しくは減退するかに就ても亦吾人既に説明する所あり。貨銀はこれに依り年々若しくは數年間を一期として或は騰貴し或は下落し、高貨銀を收得せる勞働と雖もこの動搖に堪ふること能はざるなり。英蘭の船用汽罐製造工は最近數十年間に於てその年貨銀に五十磅乃至三百磅の動搖を蒙れり。この動搖に關し學者は久しく正當なる見解を下すに至らず。自由主義の獨斷を以て樂觀して曰、相場は自由運動は貨銀市場にもこれなくんばならず、勞働者は貨銀下落年度の損害を必らずや好況年度に於て補償せざる可らじ。商品及び勞働に對する需要の變動に應じて貨銀も亦動搖すべきは當然なりと。この見地より所謂貨銀滑尺率は貨銀問題の解決法と認められたり。この貨銀決定法は殊に千八百六十年乃至千八百八十年の間、主として英蘭の二三市場工業(石炭、鐵、木綿工業)に發達し、而して集

合的契約を基礎として、商品の販賣價格に應じて從て間接には企業家利潤の多寡に準じて貨銀を自在に上下せしめんとするものなり。

この組織はさながら一工業の全般に亘りて一般的に勞働者を損益兩面に參加せしめんとするものなり。この組織をして能く成功せしめんが爲めの前提は單純にあらざれども、而かも場合に依りては實現せられざるにはあらず。即ちこれが前提を列擧すれば、一、雇傭主及び勞働者の確固たる組織。二、強固なる定貨銀傳説。三、事實上企業家利潤が相場に應じて上下すること。四、勞働者が一旦相場下落に際して能く貨銀引下げに堪へ、若しくは實にこれを喜び得ることと是れなり。この組織に於ては僅々數年間の貨銀動搖は屢一對二なりき。この組織に依り雇傭主と勞働者と一致することが、屢貨銀爭議を巧みに排除し、企業家の地位を根本的に容易ならしめ、勞働者をして正當に利潤に參からしめたるは何等疑ふべきの餘地なし。然れどもこの制度の利益を蒙るものは常に勞働者にあらずして寧ろ企業家なり。勞働黨首領は始めより多くこの契約に賛せず。而してその見解は近時實に社會を動かせり。その主として主張する所に曰、

不況時期に際しこの機械的組織に準據せる貨銀の引き下げは労働者の堪ふる能はざる所なり。生計を維持し得べきだけの貨銀は如何なる場合にも(如何に市況不振なりとも)引き下げらる可らずと。この故にこの貨銀率規定は千八百八十年乃至千九百年の間に多く再び撤去せられたり。貨銀にして全然利潤と同様に動搖せしむべしと言ふ原理が一般に正當なるかは疑問なり。たゞ富裕階級、やゝ大なる準備を貯ふる労働者は、かくの如き貨銀の大動搖にも能く堪ゆることを得べし。普通労働者に至りては、貨銀の動搖がしかく著大ならず、如何なる場合にもなるべく貨銀がその生活を維持するに足り將た生計と適合せる額より引き下げらるゝことの罕れに且つ短期間なるを以て、實に利益となす。近時英蘭に於て生計維持の貨銀—*living wages*—の爲めに猛烈にして且つ正當なる運動起り、最低限貨銀を必らず勵行せしめんとし、この最少貨銀の支拂の爲めに幾多の國家官廳及び自治體官廳は既に責任を以て干渉せるもの實にこの故なり。翻て職工組合労働者の政策より觀るも亦、苟くもその時々々の權力を恐怖主義的に貫徹せざらんこと寧ろ妥當なるべし。夫れ極端なる權力戰爭の結果は、市場に於て

も猶ほ政治に於けるが如く、戰勝者も利する所屢損する所に及ばず。蓋し是れそれに相當する反動現象を惹き起せばなり。理性、公正、無我は一般に究竟の勝利者たり、殊にこの場合に於ても亦然りとす。

さて事實を觀察するに、概して諸國家を通じて、市況に應じて貨銀が小動搖を來たせること北米合衆國及び英蘭に於けるが如く廣汎領域に亘れるものはあらず。英蘭に於て近時労働官廳の報告する所に依れば、最近に至り貨銀動搖の著大なるはたゞ鑛山業労働者、機械製造労働者及び造船労働者に限れりと稱すれども。これ恐らく信ずるに足らざるべし。例へば船夫の貨銀の如きは何處にありてもその動搖極めて甚しきを常例とし、鑛山業の貨銀も亦屢然り。獨り多くの工業、主として農業に於ては、貨銀の動搖すること罕れに、而して動搖の割合は供給需要の割合に比例すべくもあらざるなり。

諸處にこれを觀察するに、今日と雖も尙ほ慣習及び公正の觀念の影響する所は市況のそれより遙かに強靱なるものあり。或は労働者の組織ありて以て貨銀下落に抗爭せる處あり。若しくは將來妥當なる労働案内の發達あり、若しくは

失職保険の施行せらるゝ曉には、労働力供給の過多なるより來る所の壓迫は著しく減退すべし。若干年間に亘れる定貨銀契約は貨銀を不變ならしむる意味にて多大の效驗あり得べきなり。

然れども貨銀動搖を擧げて撤廢せんことは現今國民經濟に於ては可能ならず。而して社會政策的にも亦望まじきことにあらざるべし。貨銀動搖は労働者の移轉を調節し、個々職業部門の間に労働者を轉業せしめんが爲に缺く可らざるなり。然り而して労働者が市況順潮の際にはその貨銀及び生計を上進し、逆潮時期にはなるべく在來生計及び貨銀を維持せんが爲めに抗爭する限り、貨銀動搖は道德上にも社會政策上にも良果を收め得べし。而して此の如きは近時高級労働者社會に極めて屢觀る所の現象なり。この事實を基礎とし吾人は將來に對し社會政策上の希望を起さずんばならず—近き將來時代に貨銀及び生計が増進すべしてふ希望これなり。

もとより此の如き發展が幾多の複雑なる原因に繋りて存すること又言を須たざるは、吾人の既に業に陳述したる所なり。これを規定するもの人種及び民族

性格、身心上の習性、道德力及び精神力、教育及び發展能力、而して特に又國家組織及び共同團體組織、全教育制度、總社會制度、主として現労働組織是れあり。こゝに吾人の理解せんとする根本は、如何に經濟制度が生計及び貨銀に影響を及ぼし且つこれを支配するかの點なり。既に前節の始めに吾人は、幼稚なる労働者階級が市況の順潮を利用して以て永久的に生計を改善する方法に出づること能はず、逆潮に臨みては容易に劣等生活に陥ること、而して高級有爲の労働者階級はこれと反對に出づることを説明したり。國民學校、進歩せる技術教育、労働者組合制度、救助金庫の制は、労働者をして自覺せしめ、向上的努力に出でしむ。好況は未だ嘗て全く到來せざることなく、而して労働者階級の上二分の一は少なくとも大體に於て能くこれを利用せざんばならず。もとよりこの場合にも、徒らに暴食泥酔、その日暮しに陥るべき危険これなきにはあらず、然れどもそれにも拘はらず労働者の中優良なるものは、これを好機として貯蓄し、住居及び衣服の改善を計るべし。かくて人口の増加は最早過去に於けるが如く急劇にあらず又賤民的にあらざるなり。さて不況の襲來に際して

も曩時の如くに狼狽し沈淪することあらず。労働者は或は好況地方に或は進んで國外に移住し、別の職業に就き、結婚數及び兒童出生數は幾分減少す。労働者はかくて苟くも賃銀引き下げに對し有勢に抗爭し、而して不況時期に際しても亦嘗て克ち得たる賃銀騰貴の一部分を保留す、蓋し彼等は既にこの騰貴を利用してその生計を上進したればなり。

(ロ)然りと雖もこれを以て「ロッシヤ」の如く、賃銀高は主として労働者階級そのものゝ規定する所なりと言はゞ、恐らく極端に失すべし。少なくとも吾人は偽善的に苟くも低賃銀の労働者が自ら低賃銀に對して責任ありと言ふ可らざるなり。

賃銀は幾分既に工業部門に於ては夙に騰貴し、而して千八百五十年乃至千九百年間に一般に著しく騰貴したるが。これが原因は幾分は一般的大經濟變動と大體に於て労働者に有利なりし景況とに在り、幾分は言ふまでもなく貧民階級の内的向上に在りて存す。而してかく貧民をして内的に向上せしめたるもの吾人は政治的及び社會的總制度の改善に因せりと信ず。こゝに吾人はこれ等兩原

因系列を勝けて數ふること能はず。たゞそれ〴〵系列に就き若干の説明を與へんとするに過ぎざるなり。

近世技術將た現今交通の奇蹟、世界商業將た大工業の發達せる結果は、文明諸國土に亘りて千八百四十年以來、全國民經濟の生産力を劇増せしめ、著しく富を増加せしめ、爲めにあらゆる動搖と恐慌とこれあるにも拘らず、労働に對する總需要はその供給に比して強烈なるものあり。これに加ふるに生活資料の相場と貨幣價值との變動あり。この變動は差當り名目賃銀に何等變動なき場合にも、實際賃銀には著しき影響を及ぼし、不利の變動は賃銀(實際賃銀)を減額せしめ、有利の變動は則ち容易にこれを増額せしむ。

労働者は生活資料の爲めにその賃銀の四〇―七〇プロツェントを支出す。然れば則ち生活資料の相場騰貴は實際賃銀を減額せしめ、その下落はこれを増額せしむ。引き續きて麵麩及び肉の相場が騰貴せるは、必らず労働者を苦ましめずんばあらず。例へば千七百八十年乃至千八百十五年の間、千八百三十年より千八百六十年に至る間の如き是れなり。かゝる場合に労働者がその生計を引き

下げざらんと欲せば、高貨銀の爲めに猛烈なる抗争をなさざる可らず。而してこれと同時に労働需要も亦増加すれば、労働者は一層容易に有利の結果に到達し得べきなり、例へば千八百四十年乃至千八百六十年の間に於けるが如し。市況餘り有利ならざれば則ちこの結果も亦有利ならず、若しくは僅かに幾分有利なることを得るに過ぎず。例へば千八百年乃至千八百四十年の英蘭に於けるが如きこれなり。生活資料が引き續きて下落状態なれば、これが結果として人口の劇増を來さざる限り、労働者階級は容易にその生計を前進することを得べし。即ち千八百五十年乃至千九百年の英蘭、千八百七十八年乃至千九百年の歐羅巴に於けるが如き、労働者階級の地位は生活資料の相場が低廉なりしが爲めに全然その面目を革めたり。然れども同時に人口が劇増するか、若しくは労働需要にして減ずることあれば、生活資料の相場低廉なるは、引き續きて貨銀を下落せしむるの機会たり。生活資料相場の一時的變動はその引き續き變動せる場合と同一の結果を生ぜず。生活資料相場の騰貴年代に於ては、労働需要は容易に減少すれども、その供給は反之増加し。而して貨銀は一時下落す。相場下落の

程度が甚しければ屢これと逆の結果を生ず。

貨幣價値の變動が労働者階級に及ぼす所の結果は生活資料の相場變動より來る所のそれと相等し。貨幣價値下落し、一切相場が騰貴すれば、労働者も亦貨銀引き上げの爲めに抗争せざる可らず。若しその貨銀にして騰貴せず、從來の貨幣貨銀を受くに過ぎざれば、その實際貨銀は下落し、餘儀なく生計を引き下げざる可らず。第十六世紀より第十七世紀に至る間、概して歐羅巴諸國に於ける労働者階級の沈淪は、貨幣價値の下落と密接に關聯せり。慣習、行政及び立法は労働者の貨銀引き上げ要求を不當なりとし、而して大部分これを禁止したり。千八百五十年乃至千八百七十三年の貨幣價値下落は言ふまでもなくそれに相當せる貨銀の騰貴を伴へり。蓋し當時概して市況は労働者に對して極めて有利に、而して有爲なる近世労働者體型は近世労働制度と相俟て既に發展の緒に着きたればなり。然れども今日復本位主義者の希望するが如き貨幣價値下落は、やゝもすれば労働者に對し不利の結果を招かざるを保し難し。凡そ貨幣價値の騰貴は労働者に有利にして、差當り貨幣貨銀に變動を生ぜざるも其購買力を増

大し、而して貨幣貨銀の引き下げはしかく容易ならず。而して労働の供給餘りに増加し需要減退する場合に貨幣貨銀の下落を來たすことあり得べし、而かもこの需要減退は畢竟長期間に亘りて取引生活の緩慢なりし結果なることなきにあらず。

されば國民經濟の大運動、世界經濟的大景況及び一時的小景況、貨幣價值と相場との騰貴及び下落は、貨銀に對し或は好影響を來たし或は惡影響を生ず。これ等諸要素の運動及小變化は如何なる經濟政策を以てするも全然これを支配し了す可らず、僅かに幾分の變更を期し得べきのみ。貨銀騰貴及び貨銀下落の一部分はこの故に人力を以て如何ともすべからざる運命の支配なり。この運命の支配が、大體に於て千八百五十年乃至千九百年の間、吾人の觀察せる文明諸國に、労働者に對して有利の結果を生じたるは、一に以て神に感謝せざる可らず。

然りと雖も先きにも陳述したるが如く、最近五十年來の貨銀騰貴は、獨りこれ等の原因(運命の力)のみより説明し了す可らず。その緣由す所は主として労働

者階級の心理學的及び精神的向上に在り、而してこの向上は社會改良、制度の改善、貧民階級の權力増進、洞察力の昂進、貧民階級に對する富豪階級の同情に坐せり。然り而してこの原因系列は人間行爲の世界に屬し政策に屬し、洞察能力及び意志力、理想及び道徳力に繋りて存せり。

試みに觀よ一般的及び技術的學校教育及び國民教育は如何なる影響を及ぼせるか。自助及び組合制度は如何なる力を發展せしめ且つ教育したるか。一般的組合制度はあらゆる方面に如何に作用せるか。貯蓄銀行及び労働者保險制度は如何に労働者の境遇を高め且つこれを安固ならしめたるか。而して觀よ共同團體及び國家に於ける政治的權力の普及は、意識と自己感情とを喚發せしめ、然り既に幾分労働黨を恐るべき一權力とならしめたり。労働者はこの權力を濫用したること一再にあらざれども、而かもこの權力を俟たずんば恐らく労働者の向上は不可能なるべし。更に又東西を論ぜず、如何に經濟的及び道徳的教育學派がそれぞれ労働者の専門組合及び職業組合を發達したるものあるか。凡そ是等組織に關聯してあらゆる嫌惡すべき競争あるにも拘らず、その總發展は則ち



喜ぶべからずんばならず。この組織なくんば富豪階級も亦その社會的義務に想ひ到ること恐らく痛切ならざりしなるべく、労働者保護立法、住居の改善、労働者保険も亦現今の如く眞卒に施設せられざりしなるべく、富豪階級に屬する高尚にして人道的なる人士が社會的憐憫の情に動かされ、あらゆる社會的師徒に激せられ、種々の組織に依りて結合せられて同一方向に活動することも亦恐らくこれなかりしなるべし。

凡そ此等の原因は總じて直接若しくは間接に賃銀騰貴に與て力あり。富豪階級と貧民階級との乖離は到る處に再び調和せられ、賃銀労働者階級の精神道德的及び技術的進歩は、これが爲めに且つは労働者それ自身の獨立的組織の爲めに促進せられたり。今日高級労働者階級を觀るに、その如何なる犠牲を拂ても兒童に良教育を施さんとする兩親の熱烈なる精神は、嘗て獨り中流階級にのみ認められたるが如き程度に覺醒し來れり。

此の如きは獨り労働時間の短縮、獨り労働者保護立法、獨り職工組合及びその賃銀競争、獨り労働黨の政治的組織のみに因れるにあらず。實に總じて社會

### 第三卷 (中冊) 畢

改良主義的に作用し、間接に賃銀を騰貴せしめたる極めて種々雑多の原因全體に是れ依れり。而して將來の進歩を保證し、將來の不況及び恐慌も亦恐らく依て以て抑止せらるべき總近世社會制度の發達を以て殊に重要なりとなす、

大正四年十一月十六日印刷  
大正四年十一月二十日發行

(シムモラー國民經濟學原論第六冊)

定價壹圓六拾錢

著作  
所有

譯補者 山田伊三郎

發行者 東京市神田區裏神保町九番地  
合資會社 富山房

代表者 同所 合資會社富山房社長  
坂本嘉治馬

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
高木西三

印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
秀英舍第一工場

發行所

(明治二十九年  
六月設立)

東京 合資會社 富山房  
神田

電話本局一〇三六、四一三〇  
支店口座東京五〇一

# 告 豫 刊 近

貴 獨 逸 本 日 族 院 文 學 士 澤 田 山 柳 伊 太 政 郎 三 郎 先 生 著 補 序 著 補

## 論 原 學 濟 經 民 國

頁 百 五 千 四 約 數 紙 冊 九 全 製 布 總 判 菊

第九册	第九册	第七册	第六册	第五册	第四册	第三册	第二册	第一册
總覽	總覽	運營	運營	運營	組織	組織	要素	概論
紙數約五百頁	紙數約五百頁 全部近刊	紙數約六百頁	紙數約五百二十八頁 定價金壹圓六十錢 既刊	紙數六百三十拾頁 定價金 貳 圓 既刊	紙數四百九拾頁 定價金壹圓六拾錢 既刊	紙數三百五拾餘頁 定價金壹圓四拾錢 既刊	紙數四百餘頁 定價金壹圓五拾錢 既刊	紙數四百七拾頁 定價金壹圓六拾錢 既刊

336  
201

終